

アフリカ地域
TICAD Vに係るメディア招聘
業務実施報告書

平成 25 年 6 月
(2013 年)

独立行政法人
国際協力機構 (JICA)

一般財団法人 NHK インターナショナル

アフ
JR
13-012

目次

1. 背景	2
(1) 研修プログラム概要	2
(2) NHK インターナショナルの受け入れ体制	7
2-1 TV 番組制作 (ナイジェリア)	8
(1) 計画	8
(2) 参加スタッフ	9
(3) TV 番組制作	10
2-2. TICAD-V の報道番組制作と伝送フォロー (ナイジェリア)	19
3-1 TV 番組制作 (エチオピア)	20
(1) 計画	20
(2) 参加スタッフ	23
(3) TV 番組制作	24
3-2. TICAD-V の報道番組制作と伝送フォロー (エチオピア)	29
4-1 TV 番組制作 (ケニア)	30
(1) 計画	30
(2) 参加スタッフ	31
(3) TV 番組制作	32
4-2. TICAD-V の報道番組制作と伝送フォロー (ケニア)	40
5-1. TV 番組制作 (コンゴ民主共和国)	42
(1) 計画	42
(2) 参加スタッフ	42
(3) TV 番組制作	43
5-2. TICAD-V の報道番組制作と伝送フォロー (コンゴ民主共和国)	63
6-1. TV 番組制作 (セネガル)	64
(1) 計画	64
(2) 参加スタッフ	64
(3) TV 番組制作	65
6-2 TICAD-V の報道番組制作と伝送フォロー (セネガル)	72
7-1. TV 番組制作 (カメルーン)	73
(1) 計画	73
(2) 参加スタッフ	74
(3) TV 番組制作	75
7-2. TICAD-V の報道番組制作と伝送フォロー (カメルーン)	80
8. 総括	82
(1) 放送メディアを活用することの重要性	82
(2) アフリカのジャーナリストネットワーク創設の提案	82
(3) 今後のメディア招聘への提言	83

1. 背景

日本政府は1993年より5年ごとにアフリカ開発会議（Tokyo International Conference on African Development, 以下 TICAD）を開催し、アフリカ開発のプラットフォームとしてアフリカ開発の潮流を作ってきた。TICAD IVでは、日本の対アフリカ ODA 額の倍増をコミットするとともに、横浜宣言・横浜行動計画にて重点分野とされた①成長の加速化、②MDGs 達成および平和の定着、人間の安全保障の確立、③環境・気候変動問題への対処、④パートナーシップ、の4分野においても数値目標を掲げ、着実に達成している。

独立行政法人国際協力機構（JICA）は、日本の ODA 実施機関として開発途上国に対する国際協力を行い、国際協力の推進並びに日本及び国際経済社会の健全な発展に資することを目的としている。アフリカ支援についても、TICAD の政府公約達成に向けて積極的な事業を展開し、横浜宣言・横浜行動計画の達成にも大きく貢献してきた。

2013年6月に開催される TICAD V(第5回アフリカ開発会議)では、前回に引き続きアフリカ諸国、マルチ・バイの開発パートナー等多数の参加がある。TICAD V のテーマは①強固で持続可能な経済、②包摂的で強靱な社会、③平和と安定である。同会合では、日本を含むアフリカ諸国の国家首脳、国際機関のトップが出席する本会合を始め、日本の外務省や JICA が主催しアフリカ政府代表と対話するサイドイベントの数々を準備している。

2008年に開催された TICAD IV は日本国内では広く報道されたものの、アフリカ諸国におけるテレビおよび紙媒体メディアでの放送は限定的であった。TICAD V のメッセージを、アフリカ独自のメッセージとして現地テレビ局が放送し、アフリカ諸国民に直接発信することは、TICAD V の成果を実現するためにも重要である。

このような状況を踏まえ、JICA は TICAD V に向けて、同会議の様相および日本文化・技術等をアフリカ地域で放映することを目的としてアフリカ地域6か国（ナイジェリア・ケニア・エチオピア・コンゴ民主共和国・セネガル・カメルーン）の TV メディアを招聘した。会期前から会期終了にかけて招聘し、映像制作・編集技術指導、日本からの伝送補助をする研修プログラムを実施した。

本報告書は、上記研修プログラムを JICA から業務委託契約で請け負った一般財団法人 NHK インターナショナルの業務実施報告書である。

（1）研修プログラム概要

1) 研修プログラムの目的と成果物

本研修プログラムの目的は、TICAD-V 開催に合わせて、アフリカの放送メディアの手によって同会議の様相を伝える番組を作ってアフリカに報道すること、及び日本の文化・技術を伝える番組を作ってアフリカに伝えることである。したがって、プログラムの成果物として、以下の2項目を設定し、参加者に課した。

① 日本での TICAD-V のテレビ取材と取材映像の編集及び国際伝送

② 特定のテーマに基づいた日本でのテレビ番組制作（15分番組）及び帰国後1か月以内の放送

2) プログラムの参加機関

ナイジェリア、エチオピア、ケニア、カメルーン、コンゴ民主共和国、セネガルの6か国の各国の放送局

Country	Organization:
ナイジェリア	Nigeria Television Authority
エチオピア	Ethiopian Radio and Television Agency
ケニア	Nation Media Group
カメルーン	CRTV(Cameroon Radio and Television)
コンゴ民主共和国	RTNC(Radio Television Nationale Congolaise)
セネガル	RTS(Radiodiffusion Television Senegalaise)

3) プログラムの参加者

各放送局の職員で下記の役割に該当する4名を選出。

- ①ディレクター（または、プロデューサー）
- ②カメラマン
- ③編集
- ④リポーター（または、ライター）

※4人のチームで番組制作が可能となるスタッフ編成とする。

4) プログラム参加者の要件

プログラム応募者は下記の要件に該当する人物が参加機関で選抜され日本へ派遣されてきた。

- 1. 応募者は、プログラム終了後、テレビ番組制作部門のキーパーソンとなることが期待される人物であること。
- 2. 応募者は5年以上のテレビ番組制作の経験を持っていること。
- 3. 応募者は、年齢50歳未満であること。
- 4. 応募者は健康であること。
- 5. 女性の場合、妊娠していないこと。
- 6. 軍隊に所属していないこと

5) プログラムの注意点及び特徴

本プログラムは、個々のスタッフを対象とした通常の基礎的技能研修ではないこと、またプログラム参加者は、放送局の職員として実務経験を積んでいる者を対象とし、本プログラムにおける指導とは、日本の放送局で重視されている「政治的中立・公平・公正な番組制作」「チーム一体で番組を制作するシステム」「テーマ性を重視した番組の企画、構成」等について学ぶことを主たる目的とするものであることを、プログラムの冒頭に参加者へ周知するよう伝えた。

また、日本の最新の放送技術とテクニックを学ぶ目的で、NHKの放送センター見学、NHK技術研究所見学、放送機器メーカーの工場見学、地デジ放送日本方式の特徴説明をプログラムに組み込んだ。

撮影・編集用機材は、事前にアンケートをとり、日頃メディアクルーたちが使い慣れていること、ま

た操作トレーニングも含めてサポート体制が充実していることを考慮して、カメラはソニー製（NXCAM）、編集機はソニー製（Vegas pro）を準備した。

6) - 1 プログラムの日程（ナイジェリア・エチオピア・コンゴ・セネガル・カメルーン）

日程	時間	内容	担当者	場所
5月12日 (水)				
5月13日 (月)	10:00- 11:30	挨拶・全体ブリーフィング ○TICADの歩みとTICADV、本プログラムの狙い	JICA 宍戸 参事役	JICA 東京
	11:30- 12:00	プログラム・オリエンテーション 滞在中の手引き、諸注意		JICA 東京
	13:00- 18:00	招聘放送局側からのプレゼンテーション ○各国放送局の歩みと現在 ○英語チーム・仏語チーム分かれて実施		JICA 東京
5月14日 (火)	講義 / 見 学	日本の放送機材メーカー見学		東京近郊
5月15日 (水)	10:00- 11:30	地上デジタル放送日本方式 (ISDB-T) の特徴	総務省	JICA 東京
	13:00- 14:30	NHK 放送センター見学		NHK
	16:00- 17:30	NHK 放送博物館見学		NHK
5月16日 (木)	10:00- 12:00 演習	「日本」をテーマにした番組作り ～テーマづくり～		JICA 東京
	13:00- 17:00 演習	「日本」をテーマにした番組作り ～全体構成台本～		JICA 東京
5月17日 (金)	10:00- 12:00 演習	「日本」をテーマにした番組作り ～取材内容の確認～		JICA 東京
	13:00- 17:00 演習	「日本」をテーマにした番組作り ～取材時の役割分担～		JICA 東京
5月18日 (土)	休日			
5月19日 (日)	休日			
5月20日 (月)	移動/ロケ ※各国毎に行動			
5月21日	ロケ			

(火)			
5月22日 (水)	ロケ		
5月23日 (木)	ロケ		
5月24日 (金)	ロケ/移動		
5月25日 (土)	休日		
5月26日 (日)	休日		
5月27日 (月)	番組編集		JICA 東京
5月28日 (火)	番組編集		JICA 東京
5月29日 (水)	10:00-14:00	番組編集	JICA 東京
	15:00-17:00	NHK 技術研究所視察	研究企画部 NHK 技研
	18:00-21:00	番組編集	JICA 東京
5月30日 (木)	TICADV 事前取材/編集 ※取材班と編集班に分かれて 行動		JICA 東京
5月31日 (金)	TICADV 事前取材/編集 ※取材班と編集班に分かれて 行動		TICAD
6月1日 (土)	TICADV 本番取材～ニュース編集		TICAD
6月2日 (日)	TICADV 本番取材～ニュース編集		TICAD
6月3日 (月)	TICADV 本番取材～ニュース編集		JICA 東京
6月4日 (火)	最終番組編集		JICA 東京
6月5日 (水)	録音・MA		NHK インター
6月6日 (木)	試写会/意見交換会/評価会/終了証書授与		JICA 東京 (AB 合同)
6月7日 (金)	聞き取り調査		JICA 東京
6月8日 (土)	帰国		

6) -2 プログラムの日程 (ケニア)

ケニアチームのみ、所属組織の都合で日本滞在期間を2週間短縮し、下記の短縮日程で研修プログラムを実施した。番組制作と TICAD 取材に集中したスケジュールとした。

日程	時間	内容
5月18日(土)		移動
5月19日(日)		日本到着
5月20日(月)		ブリーフィング/NHKの説明と見学
5月21日(火)		都内ロケ
5月22日(水)		都内ロケ
5月23日(木)		都内ロケ
5月24日(金)		都内ロケ
5月25日(土)		休日
5月26日(日)		休日
5月27日(月)		番組編集
5月28日(火)		番組編集
5月29日(水)		番組編集
5月30日(木)		TICADV 事前取材 ※編集班のみスタジオで録音作業
5月31日(金)		TICADV 事前取材/編集 ※取材班と編集班に分かれて行動
6月1日(土)		TICADV 本番取材～ニュース編集
6月2日(日)		TICADV 本番取材～ニュース編集
6月3日(月)		TICADV 本番取材～ニュース編集 夜：試写会/終了証書授与
6月4日(火)		移動
6月5日(水)		ケニア帰着

(2) NHK インターナショナルの受け入れ体制

一度に24名の海外メディアを招聘するという事で、NHK インターナショナルの総力を結集して対応した。特に地方で取材活動したチームには、コーディネーターに加えプロデューサーの経験者を同行させ、2名で取材活動のサポートに当たった。また、TICAD 会期中にもほとんどのチームが、TV 番組編集を完了していなかったため、TICAD 取材班と TV 番組編集班を分けて活動を行った。そのため、仏語通訳などサポートの人員をその都度増強するように柔軟に対応した。

下記は、主な担当者であり実際にはこの他に多くの人員が本プログラムのサポートに当たった。

氏名	担当業務	所属組織
下村 博司	総括/メディア制作	NHK インターナショナル
下山 富男	ジャーナリズム /コーディネーター (ケニア)	NHK インターナショナル
和田 良知	番組制作 I	NHK インターナショナル
宮地 誠	番組制作 II	NHK インターナショナル
高橋 美幸	事務局	NHK インターナショナル
杉江 義浩	資料映像手配	NHK インターナショナル
山下 未来	TICAD 会場内情報収集	NHK インターナショナル
安藤 正治	番組制作アドバイザー	NHK インターナショナル
上野 良夫	コーディネーター (コンゴ民)	NHK インターナショナル
大森 元之	コーディネーター (カメルーン)	NHK インターナショナル
武井 和美	コーディネーター (セネガル)	NHK インターナショナル
千葉 富美子	コーディネーター (ナイジェリア)	NHK インターナショナル
夏井 美貴	コーディネーター (エチオピア)	NHK インターナショナル
金満 浩崇	地方取材支援	NHK インターナショナル
中村 春男	地方取材支援	NHK インターナショナル
堤 慶子	仏語通訳	フリー
望月 綾	仏語通訳	フリー
梶田 祐	仏語通訳	エミュスインターナショナル
八角 幸雄	仏語通訳	エミュスインターナショナル
中嶋 美貴	仏語通訳	エミュスインターナショナル

2-1 TV番組制作 (ナイジェリア)

(1) 計画

以下のスケジュールで取材活動を行った。

5/20 月	10:00 長瀬麻衣子さん宅(中野区) *20か月の赤ちゃんの家庭での様子 *母親インタビュー 母子保健制度によって妊娠～出産、 育児の現在まで自治体からどのような サービスを受けたか。 *祖母インタビュー	13:30 ナイジェリア大使表敬訪問 (東京都港区) 15:00 JICA(TIC)セミナールーム 番組構成、内容について引き続き打ち合わせ
5/21 火	11:00 順天堂病院にて取材打ち合わせ 産婦人科・育児ママ外来について (平岡、千葉) 12:00 TIC Lobby 横浜市青葉区へ出発	13:00 横浜市青葉区役所(神奈川県横浜市) *保健センター 乳幼児健診撮影 (受付ー保健師聞き取りー医師健診) *区役所で母子手帳申請の様子 *建物外観撮影 16:00 渋谷駅前交差点 センター街撮影 17:00 番組制作打ち合わせ
5/22 水	10:00 TIC Lobby 11:00 順天堂大学病院 管理課 建物外観	順天堂病院内 13:00 育ママ外来 新生児と母親への指導等 沐浴指導インタビュー 廣田助産師 15:30 妊婦健診インタビュー 牧野医師
5/23 木	10:15 渋谷区役所本庁舎 広報部 友永様 *インタビュー 小湊課長出産一時金、 乳幼児からの医療費補助制度 地域保健課 日本の母子保健制度 建物外観撮影	13:30 品川区役所本庁舎 (品川区大井町) 健康福祉課 江部課長 *インタビュー 品川区の母子保健のポリシー、 子供医療費補助について 区役所外観 周辺撮影
5/24 金	東京雑感撮影 皇居、国会議事堂、東京駅、浅草 など	13:00 国立国際医療研究センターインタビュー 藤田則子医師、福嶋佳奈子助産師 海外への日本の母子保健制度導入の現実 15:30-16:00 JICA 専門家インタビュー 保健アドバイザー 尾崎さん 人間開発部 蓮見さん

(2) 参加スタッフ

招聘メディア: ナイジェリア国営放送局 Nigeria Television Authority

Ms. Halima Musa	Program Producer	
Mr. Lawole Segun	Program Reporter	
Mr. Muhammadyu Garba Abdullah	Cameraman	
Mr. Nnamdi Odikpo	Editor	

ナイジェリアからは、ナイジェリア国営放送 NIGERIA TELEVISION AUTHORITY が招聘された。NTA はアフリカ最大の放送局。1977 年発足。国内各州に支局を持ち、ガーナ、USA、カナダ、イギリス、中東に海外支局をもつ。ニュース、スポーツ、エンターテインメントチャンネルのほか、24 時間オンライン英語ニュースを出している。2014 年からデジタルハイビジョン放送がヨーロッパ方式で始まる予定。

今回来日している4名はニュース部門から派遣されている。Harima Musa プロデューサーと Muhammadyu Garba カメラマンは2008年洞爺湖サミットの際に取材で来日しているベテラン。当時のナイジェリア大統領夫人とともに宮中の美智子皇后陛下に謁見したことがあると話していた。(カメラ取材はできなかつたらしい)

(3) TV 番組制作

番組タイトル 「LET THEM LIVE ～日本の母子保健」

番組の長さ： 15分

撮影期間： 2013年5月20日(月)から5月24日(金)

放送予定： ナイジェリア国内にて帰国後1か月以内放送。1年以内再放送可

内容： 「日本では子供は天からの授かりものと言われ・・・」というナレーションで始まり、日本人の意識にもフォーカスしながら、日本の母子保健制度と様々な活動を紹介。

新生児の沐浴の指導を受けるお母さん、長瀬麻衣子さんと20か月の赤ちゃん、祖母のけいこさんが受けた母子保健サービスについてインタビュー、保健師さんにミルクの飲ませ方などの指導を受ける新生児のお母さん、乳幼児健診、妊婦健診。その重要性について産科医師インタビュー、品川区・渋谷区役所の担当者による母子保健制度と医療費補助制度の説明、ナイジェリアの妊婦さんの様子、日本の子供たちの様子、日本の乳幼児死亡率の低下について統計、JICAの海外活動、海外で母子保健医療に携わる医師のインタビュー、JICA保健専門員のインタビューなど。

□ 番組のテーマとねらい

テーマは「日本の母子保健」について。ナイジェリアでは乳幼児の死亡率が高いだけでなく、1日に約150人妊産婦の死亡し、同時に生まれる前に胎児が亡くなってしまう。母体を守ることが子供を守ることでもある。日本では戦後の母子保健制度により乳幼児の死亡率が激減している。2010年からJICAがナイジェリアで母子保健活動を始めた。日本が国としてどのようなポリシーで制度を作ってきたか、現在の日本の母子保健の内容について取材し、ナイジェリアでは何が必要か、どのようなアプローチが可能かを探る。

□ リサーチとコーディネーション

母子保健制度と具体的な保健や医療サポート内容、子ども医療費の補助制度の二本の柱を中心に、乳幼児と母親、地方自治体を取材候補とした。また、海外へ母子保健制度を導入しているJICAの資料映像や専門家に話を聞き、ナイジェリアへの導入の手掛かりを探る。

取材内容候補

- *保健センターや医療機関：マタニティクラス、妊婦健診、乳幼児健診(4か月、6か月、9か月1歳、3歳)、保健師の家庭訪問、予防接種など
- *地方自治体(区役所、市役所)：母子手帳、妊婦健診、予防接種などの費用補助、出産一時金、15歳までのこども医療費補助制度(こども保険)
- *赤ちゃん、保育園、幼稚園、小学校、中学校など、こども保健対象年齢の子供たちの様子
- *JICA:日本の母子保健システムの海外へ導入する場合の困難と成功例

取材先候補： 昭和大学病院、順天堂大学病院、国立国際医療研究センター、品川区役所と保健センター、渋谷区役所と保健センター、区内保育園、小学校など
横浜市青葉区役所と保健センター、
JICA(海外への母子保健システム導入のために活動されている専門委員)

□ 取材

以下のスケジュールでインタビュー及びロケが行われた。保育園、小・中学校など公立の学校関係は、プライバシー保護のため全ての子供の保護者から同意書を取らなければならず、実質取材不可。エチオピアチームで取材許可のとれた私立保育園園長に許諾を得て、保育園で踊っている子供たちの様子の映像を番組で使用させてもらうことになった。

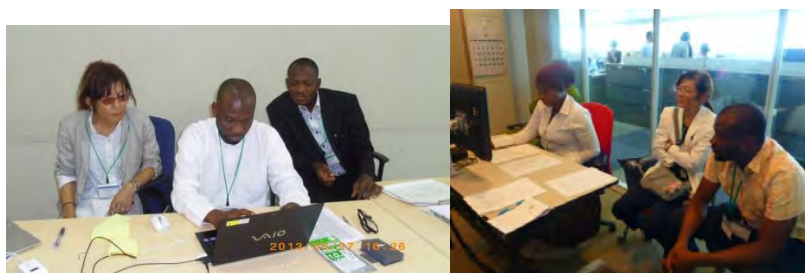


□ 番組編集

5月27日(月)～6月2日(日) 編集、6月4日(火)音入れ

映像素材選択、映像編集、番組構成最終版作成、ナレーション原稿最終版作成、

ポスプロ（音楽、ナレーション入れ）は6月4日NHK インターナショナル MA ルームにて



Sequence/Items	Time of Seq./Total Time	Picture & Captions	Time of each Cut	Q	Narration & interview, conversation etc.	
Opening Intro	42	Baby rying/Children laughing/playing	10	q	Ambience10”	
		children at waterfront in park	17	Q	Happy kids, full of life. They are pre-school children with a promising future. It all starts from conception to nurturing. The kind of care and grooming a pregnant woman and her unborn child receive. All over the world, many have had good stories to tell, while some others not too pleasant a story. The experiences have not stopped nature from procreation. The story can always be as bright as a shining star.25”	
		A mother washing a day month old baby				
		Mother talking& bathing a newborn/sound of water	9			
			7			M1 (b/g slow Japanese)7
		Title				LET THEM LIVE
		Close up of day old child	4			In Japan, traditional views support the belief that a child is a gift of gods, born with new nature and in the realm of gods, until the age of seven. This is perhaps why the newborn, infants and mothers are generally perceived as a unique breed in Japan requiring adequate attention and focus. By the 1930s, the health and welfare of pregnant women and infants in the Asian country was considered quite imperative and factored in japans’ development process.(28)
		Medium shot of mother bathing baby nurse wheeling baby granma looking at baby	4			V sound (10)
		Close up of baby’s face	10			Traditional music(slow
		Mother feeding baby CU baby feeding	3			Prior to 1940, Japan’s Maternal mortality rate was put at 228.6 per 100 thousand live births. Infant
Archive footage of doctor exam. Pregnant woman. pre-ww11 Japan	7		Q			
Doctor attending to	10					

Present situation	1:20	woman			<p>Mortality was seemingly no better. Figures from the Country's Ministry of Health, Labor and Welfare indicated a worrisome trend and appeared to compel the government to act. After the Second World War, Japan began to experience a drastic upgrading of activities on Maternal and Child Health. The government realized that it was fundamental to build structures that would form the base for development and advancement in the field of Maternal and Child health. It began by enacting legislations and subsequently setting up institutions that formed the framework for what has today become a huge success story. Though Japan experienced a corresponding decline in fertility and birth rate, Infant Mortality particularly decreased by about 50% for every decade since 1945. In 1990, it dropped to 4.6. Certainly for Japan, Rome was not built in a day. Today's Japan may have institutionalized a health system which guarantees optimal care for both an expectant Mother and her unborn Child. Issues such as Routine Checks for Pregnant Women, Newborn and Infants are provided for by law, while City governments across the country have expanded the scope of safety nets for the welfare of this focal group. Nobuo Ebe is an official of the Shinagawa City Government. He is quick to point out that that priority is placed on issues regarding Mother and Child health in Shinagawa.(1:20)</p> <p>In order to pregnant women's health and ensure safe child birth, there are various strategies in Japan,.Pregnant</p>
		Graph of present situation of maternal mortality	38		
		Sunrise	10	Q	
		Aerial shot of Japan			
		Skyline of modern Tokyo	8	Q	
		Two mothers standing by the street	12		
			4		
		Est. Shinagawa building	10	Q	
		CU Shinagawa	6	Q	
		Set up of Shinagawa official	6		
Interview. Shinagawa, Nobue Ebe	5				
CU of MCH handbook	9				

MCH handbook		woman flipping through book	1:24		women take maximum 14 times routine check up until child birth....after child birth.....(1:24)”
		Maiko playing with her child	7	q	M 2 (11) The maternal and child health handbook system is considered to have played a significant role in improving communication between providers and consumers of medical services in the provision of maternal and child health. The health handbook is part of a scheme designed to record in a single document all the data on health services provided and the health condition of the mother and her child during pregnancy, delivery and after birth. After its upgrade to a national version, the book allows local governments to add information according to their needs.44
		Over shoulder Maiko flipping thru handbook	11		Japanese women have embraced the MCH handbook and invariably, it has become a companion. This is Ms Maiko Nagase and her first child Aira. A 31 year old working mother. She is a beneficiary of the MCH handbook system which has continued to help thousands of mothers in Japan.18
		CU of hand flipping	14		
		Baby Christina playing	10	Q	When we go to hospital with this handbook, it helps the doctor to check us and every care we already received as contained in the book.28”
		Interview Ms Maiko	13		Ambience 11
	1:20	Baby Christina playing	7		Ms Maiko’s mother, Ms Keiko had a similar experience. Till date she has the same health handbook used for her daughter maiko. Four months
	3:24	Grandma Keiko playing with Christina	9		

Other	4:37	Interview grandmother(Keiko)	13	Q	into Maiko's conception, she got the MCH handbook from the local government office.13
			9	This is my copy of the mother and child handbook. It includes various items such as conditions of pregnancy, medical checkout results written by doctors, I also added some records by myself and of course the order of vaccination is recorded.44
		Est of Juntendo hosp. building	5	Q	
		Close up o entrance, juntendo.hosp.	8		The 175 year old Juntendo university hospital in Tokyo, where mothers receive healthcare for their babies has been involved in the implementation of other strategies to prevent maternal and child mortality.They include several other initiatives such as the health and screening checks, universal health insurance coverage, in place to help safeguard mothers and infant health in Japan. Other noticeable factors that are unique to Japan and have also helped to improve the country's maternal and infant health program include the public health program, community participation and the enactment of the mother's body protection law. Ultimately, the Japanese government carved out four major programs in promoting mother and child health. Government has continued to strengthen health care measures and promote health education for adolescents. It also assures safety and comfort during pregnancy and child birth.50"
		Nurses station	8	Q	
		Doctor examining patient	3		
		Dr checking scan	6	Q	
		Over shoulder Dr checking scan	5		
		Zoom Dr. writing	4	q	
		CU of scan machine Dr &lady	4	Q	
			50s		
		Interview Dr.Shintaro Makino	3	q	This is our facility we check everything. If mothers show abnormal signs they are detected early and this reduces

strategies		mother/nurse bating baby	5		mortality.....33... In addition to the doctor's examination, midwives also train new mothers on how to carry out basic care of the babies such as bathing, necessary for their well being.14
		Mother bathing baby CU of new born	4		
		Interview. Noriko Hirota(midwife)	4	Q	At this hospital, not only doctors but also midwives provide care services for mothers and their babies under the name of 'iku mama clinic' 30..
			3		b/g MUSIC 3 (7) Although the health system is all inclusive and Participatory the incentives in terms of funding have not only gone a long way in providing quality service but also encouraged women to access health care services , now brought closer to their neighborhood.25
		Shot of midwife teaching mother	8		
		Doctor consulting with mother	3	Q	
		Tilt shot of baby to doctor	25	q	The health insurance does not cover 100% of the total medical costs and the remaining 30% is...29”
Other strategy contd	5:45	Ext. Shibuya city Inter. MrNobuyuki Kominato,(shibuya)	5		While the medical cost is subsidized, the national center for global health and medicine since established has taken up the challenge of deploying the various strategies to improve maternal health. Dr. Noriko Fujita a technical officer and midwife of the department of international medical cooperation says the current success in maternal and child health by
		Est of NCGH		q	Japan has not been a Bed of Roses.24”
		Medium shot of center	3		It is not something that we achieve in...it took over 70 yrs to reduce mortality,.....25
	7:52	CU of Dr Noriko Fujita	15	Q	
		Interview, Dr. Noriko	5	q	Since 1994,Indonesia has embraced part of the Japanese strategy on

Adaptability	8:56	Fujita	24		<p>mother and child healthcare, particularly the MCH handbook system. The country has utilized the handbook as part of a national programme to boost the safety of pregnant women. It was discovered that pregnant women who used the MCH handbook were more inclined to take advantage of antenatal and postnatal care services. Palestine is another country that has also adopted this strategy. Emerging indices from that country seem to show positive results.</p> <p>The strategy has increased the acquisition of knowledge and better communication between health service providers and women³³”</p> <p>M3(7)</p> <p>What we know is in Indonesia case, through the handbook, the mothers know more about themselves....³³”</p> <p>In 2010 alone, the Japanese government spent a total of two billion, four hundred and sixty three million Yen for Maternal and child health as technical Assistance in Europe, Latin America, Asia and Oceania, Middle East and Sub-Sahara Africa. Nigeria, one of the countries with the highest Maternal Mortality in sub-Sahara Africa. An estimated 150 Women are said to die every day in pregnancy related cases in Nigeria according to figures recently released by UNICEF. While the Nigerian government intensifies efforts to reverse this figure, the country is currently benefiting from a Technical cooperation program on Maternal and Child Health driven by the Japan International Co-operation Agency</p>
		Est. Shot of Indonesia with map	6	Q	
		Women on the street in Indonesia	3	q	
		Women in Indonesia with MCH book	9		
		Est. Shots of Palestine with map	10	Q	
	9:45	CU of MCH book	10		
		Interview. Osaki Keiko(Jica) Graph of partner country	12		
		Google map of Nigeria	8	Q	
		Nigerian mother & baby	5	q	
		Pregnant Nigerian women in hospital	12		
Adaptability (cotd)	12:32	JICA logo	3		
		Medium shot JICA office in Tokyo	5	Q	
			5		

Coclusion		Interview Jica, Hasumi	5		JICA. The program is in a pilot phase in Lagos state.JICA believes its partnership with Nigeria on Maternal and Child health is timely as mothers and infants remain vulnerable to several subsisting problems.49
	13:04	Long shot of doctors in a row Medium shot of row of doctors check up on babies	5 4	Q	What we do in Nigeria is to help improve maternal health.....45”
	13:57	Interview Dr Noriko Fujita	6	Q	The Japanese policy of ‘adopt and adapt’ comes highly recommended. But many have argued that adopting these health systems in other African countries including Nigeria is dependent on so many factors11”
		Shots of pregnant women	6		What we need is the group of people not small number but enough number of professionals that can work for the health of mothers and children. This is what you need in Nigeria.....20”
		A newborn in a cot			
		A scan of foetus	9	Q	The life of a mother is as precious as that of an unborn child the world over. The Japanese system of maternal and child health is a pointer to the sanctity of life which apparently requires political will and community participation for sustenance. As records stand today, Japan has the highest life expectancy rate in the world. Every citizen of the world has a right to life; the unborn child is certainly not an exception. As it is said a healthy people make a healthy nation.25”
		Pregnant woman lying down	29	q	END CREDITS

2-2. TICAD-V の報道番組制作と伝送フォロー（ナイジェリア）

6月1日(土)～6月3日(月)

ナイジェリアはサンボ副大統領をはじめ、4人の大臣が TICAD V に参加し、総勢 75 名の大デリゲーションで来日した。NTA ニュース部門の 4 名はすでに承知しており、副大統領について NTA から別のニュースクルーが同行してくることになっているため、こちらからはそれ以外のニュースを出す予定。番組編集作業が終わらず、1日は編集 PC を TICAD 会場に持ち込み作業継続、2日は記者とカメラマンのみ TICADV 取材した。

取材内容：

- 6月1日(土) JICA セミナー “A view of the African Transformation Report a discussion on how the state and private sector can work together to promote transformation. 登壇者へのインタビュー、参加者へのインタビュー
アフリカン・フェア 2013 ナイジェリア大使館出展ブース
ニュース原稿を書き、会場内で立ちリポ収録
本会合内でのナイジェリア大臣のプレゼン部分の素材コピー希望。
メディアサポートデスクへ依頼
夜、ホテルから NTA のサーバーへニュース伝送
- 6月2日(日) お昼にナイジェリアブースに副大統領立ち寄りとの情報ありスタンバイしたが、現れず、取材をあきらめて JICA セミナーへ。フェアの来客にインタビュー
Nigeria Cultural Event アフリカン・フェア 2013 会場ステージ
JICA セミナー “Economic Transformation of Africa”
夜 TIC にもどってからニュース伝送
- 6月3日(月) ナイジェリア副大統領会場入り
JICA セミナー会場 インターコンチネンタルホテル「SILK」前で立ちリポ収録
“Peace Corps of Nigeria” HALL C 団体が直前まで現れずキャンセル。
ナイジェリア大臣の映像素材を入手
ナイジェリア副大統領つき NTA ニュースクルーが合流し、IMCの様子とメディアへのインタビューを撮影。ニュース映像を編集したようだが、立ちリポ収録せず。



3-1 TV番組制作（エチオピア）

(1) 計画

■TV番組制作（企画準備・取材・編集）のスケジュール


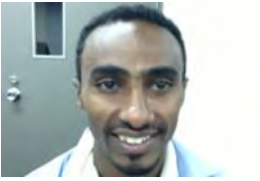


2013/5/17 (金)	10:00 -11:00	<u>JICA アフリカ部アフリカ第二課中谷様による説明会</u>
	11:00 - 12:00	<u>番組の構成作成</u> 昨日作成した構成表について、アドバイザーよりコメントをもらい、再構成。頭部分をもっと分かり易く変更する。
	13:15 - 18:00	<u>構成表再」作成</u> インタビュー内容も入れたストーリーボードを作成。
2013/5/20 (月)	9:00 -14:30	<u>東京都認証保育所 若葉インターナショナル幼保園 瑞江園</u> 幼保園に取材訪問。
	16:30 -18:00	<u>構成表打合せ</u> 朝の時点で構成表が大雑把なので、もっと詳細にすること、流れもある程度、今日撮ってみて、再考して欲しい旨アドバイスした。
2013/5/21 (火)	10:00 -12:00	<u>日本同盟キリスト教団中野教会付属 上ノ原幼稚園</u> お母さんたちに簡単な説明とご挨拶の後、副園長先生と打合せ。明日、明後日、その次の日と取材スケジュールの確認をする。またインタビューについても、事前に話合う。
	16:00 -17:00	<u>渋谷交差点撮影</u> プロデューサーのサブレさんが日本に来ている等のレポートをしながら横断歩道を渡る様子を撮影。カメラマンは渋谷の町の様子を精力的に撮影していた。
2013/5/24 (金)	10:00 -13:00	日本同盟キリスト教団中野教会付属 上ノ原幼稚園 代々木公園 遠足の様子、お母さん達のインタビュー
	14:00 -16:00	各所、ジェネラルショット
2013/5/27 (月)	10:00 -11:00	アドバイザーより、PPTを使って、撮影後、今週はMAまでどう進めていくか説明。
	11:00 - 12:00	編集機の操作方法の説明。前半エディティング基本。フォルダーの作り方、映像の取り込み、整理、フレームライン上での基礎的な映像編集など。

	13:00-15:30	フレームラインでの編集、便利な機能編。フェードイン、アウトが映像、字幕、音声ともフレームライン上で簡単にできる。いちいちイフェクトを積み重ねていく手間がない。
	15:40-18:40	映像の取り込み、整理。
2013/5/28 (火)	9:00 -11:45	昨夜のうちに、ある程度映像を編集していた。撮っていた映像に従って、再構成作業。
	11:45 - 12:00	16:9 の画角サイズ説明。
	13:00-16:00	自分達の部屋で編集。
	16:00-18:00	アドバイザーに編集した映像を見てもらった後、解散。明日引き続き作業。
2013/5/29 (水)	9:00 -12:00	朝から編集に取り掛かる。ディレクター、カメラマン、編集 3 人で作業を進めている。
	14:00-17:00	NHK 技術研究所の見学。
	13:00-17:30	使用フッテージもほぼ決まった。
2013/5/30 (木)	9:00 -12:00	映像素材の確認と、発注を行う。編集を続行。
	13:00 - 16:00	ナレーションの編集を行う。
	16:15-17:00	IP 伝送をするための、レンダリングと FFTP サーバーについて説明した。明日からの TICAD で現場からニュース等を送る予定。
	17:00-18:00	引き続きナレーション編集。
2013/5/31 (金)	10:30 - 12:00	TICAD 「アフリカにおける高等教育の展望」 を取材・撮影。JICA 横浜センター外で立ちレポもし、午後には編集、ナレーションも入れて IP 伝送した。
	13:00 - 14:00	「インクルーシブでダイナミックなアフリカ開発」 を取材した。
	15:00-19:00	メディアセンターで編集。
	21:00-21:30	NHK アーカイブス、チャート、地球 CG 取り込み作業。
2013/6/1 (土)	10:00 - 12:30	「南南協力と三角協力の可能性～アフリカにおける強靱な社会の構造に向けた相互学習・共同開発、そして実行へ」 を取材・撮影。
	13:00-17:30	サイドイベントの編集に今回はかなり時間をかけていた。
	21:00-21:30	アドバイザーに映像を見てもらう。本国でアムハラ語にする予定。

2013/6/2 (日)	8:00 -12:00	今日は午前中「アフリカにおける JICA の産業開発アプローチ」を取材、撮影予定だったが、編集に時間がかかりそうだったので、TIC にて編集に専念することになった。朝から修正に取り掛かっていた。
	12:00 - 16:00	部屋にて編集作業。
	16:00 - 17:00	試写。
	17:00-19:00	テロップ入れ、FTP にのせる作業を完了。音効さん用の構成台本は、部屋で仕上げて FTP に載せた。
2013/6/3 (月)	9:00 - 10:30	「アフリカ稲作振興のための共同体 アフリカにおける食料安全保障/農業開発へ向けての新たな取り組み。」取材、撮影。
	10:30 - 15:30	最終編集&字幕チェック。
2013/6/4 (火)	10:00 -12:00	編集最終チェック。
	13:30 - 16:00	MA 用、かき出し。音声は AAF、映像は AVCHD になった。
	16:30-18:00	AAF 音声データはレンダリング前でないと読み込めない事が判明。映像同録を使用することになった。
	特記事項	エチオピアはアムハリック(アムハラ語)の字幕を彼らの国で入れる予定。
2013/6/5 (水)	10:00 -12:00	帰国準備
	14:00 - 17:00	もとの編集トラックから仮音楽、ナレーションを抜いたものを編集マンに作ってもらい、音声だけ WAV ファイルにかきだす。

(2) 参加スタッフ

Organization: Ethiopian Radio and Television Agency

Ms Seblewongel Assefa bekele	Program Producer	
Mr Mekuwanent Yishak Eresoo	Program Director	
Mr Ahmed Mohammed Aman	Cameraman	
Mr Berhanu Gelan Baruwaq	Editor	

(3) TV 番組制作

番組タイトル 「Preprimary education in Japan」

番組の長さ： 15分

言語：アムハラ語

撮影期間： 2013年5月20日(月)から5月24日(金)

放送予定： エチオピア国内にて帰国後1か月以内放送。

内容： 日本の幼児教育を取り上げ、幼稚園、保育園、文科省などを取材した。各所にプロデューサーが画面に登場して番組を進めていくという手法で、自国でのやりかたを踏襲した。読み書き、計算が主というエチオピアの幼児教育に対して、仲間との協調や自主性、生活の仕方、ものに取り組む姿勢などを楽しい遊びの中で身につけていくという日本の幼児教育に焦点を当て、自国の幼児教育の方法に何らかのヒントを与えることを狙いとしている。構成としては日本独特の幼児教育のやり方を紹介しその意味を文科省の担当者に聞くというオーソドックスな作りである。保育園と幼稚園の違いもグラフィックで表示し、乳児も保育する保育園と、3歳以上の幼稚園として映像でも意識的に表現した。しかし保育や教育のやり方はその施設ごとに独自のものであることもあって、保育園と幼稚園の違いが明確には出なかった。これは日本人でも明確な区別が難しいところで仕方がない面もある。

参加者とコーディネーターが議論を重ね、下記のような企画書を完成させた。

TV 番組企画書

PROPOSAL

1	Title	preprimary education in Japan (tentative)
2	Screen date	
3	Time	15'00''
4	Aim	<p>Target audience Parents of Children's, nursery and KG school. policy makers</p> <p>To change teaching and learning process on nursery and kG school. To promote best practice of Japan's primary education</p> <p>The program shows the content of Japanize people preprimary education through daily life in a nursery school and kindergarten and given hints for Ethiopian people to enhance their –preprimary education.</p>
5	Contents	<p>In Ethiopia preprimary education has been disseminated as In japan. Children at age three go in to nursery school and at age four to five. They go to kindergarten They learn numbers, counting, reading and writing in class style. On the other hand, in japan infants and children learn lifestyle habits such as hand washing how to use a toilet, greeting and eating manners. Plus recently</p>

		<p>teachers focus on “fun play or games “they think help children gain wisdom and imagination .also according to the idea that the age of 0-6 are the most important for human brain development , some nursery school have started providing morning meeting , yoga lessons, and reading to infants.</p> <p>Interview</p> <p>. Ministry of education culture, sports science and technology .(one expert on preprimary education)</p> <p>.Wakaba international nursery school. muzue(interview with principal ,interview with teachers)</p> <p>. uenoharara kindergareden ,Christian (vice principal ms. Shiina, teachers, students and parents)</p>
6	Period of production	Location 5 days
7	Date of completion	4/06 /2013
8	Estimated cost	

TV 番組構成表

前述の企画書をもとに、参加者とコーディネーターが議論を重ね、下記の番組構成表を完成させた。

Script writing- synopsis

Name: preprimary education in Japan

group: Ethiopian

No	ITEMS	IMAGE	AIM /COMMENTS /INTERVIEW	TIME
1	Opening	General view of Tokyo	To promote Japan's current development, we will promote this scene with music (sound truck)	45sec
2	Introduction of japan current development	Pictures which show current japan development ,like city industry ,infrastructure, etc.	Narr: Japan is the large country with the population of 125 million, the country is the home of technology.....	50 sec
3	Education program in japan	the image of schools in Tokyo(archive)	Narr: Japan's has implemented a success full educational program	50 sec
4	Current japan preprimary educational program	The image of preprimary school in Tokyo	Narr: General information about preprimary education.....	45 sec
5	wakaba internationals school	The image of different nursery school student activities	Japan has a lot of nursery school	4 min
6	Uenoharara Christian Kindergarten school	The image of different kindergarten school student activities	In the same way japan has a lot of kindergarten school.....	6 min
7	Conclusion	Image all schools and students activity on teaching learning process.	Japanese educational is successful and become bench mark as a country like Ethiopia.	2 min



5月15日駐日エチオピア大使館訪問



5月17日番組構成



5月17日 番組構成



5月20日 若葉幼保園



5月21日渋谷 ERT



5月22日幼稚園



5月23日 文科省訪問



5月28日 番組構成



5月27日 編集研修



5月27日 編集作業



5月31日 サイドイベント



5月31日 JICA 横浜立ちレポ



6月1日 TICAD サイドイベント



6月3日 TICAD 会場内
International Media Center

3-2. TICAD-V の報道番組制作と伝送フォロー（エチオピア）

TICAD-V での取材報道活動

JICA のサイドイベント、アフリカフェア、を中心に積極的に取材活動を推進した。

(1) TICAD-V で制作した報道番組一覧

*5月31日 アフリカにおける高等教育の展望、

*6月1日 「南南協力と三角協力の可能性～アフリカにおける強靱な社会の構造に向けた相互学習・共同開発、そして実行へ」

2本の報道番組を取材・制作した。



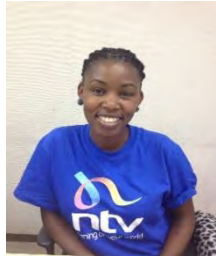
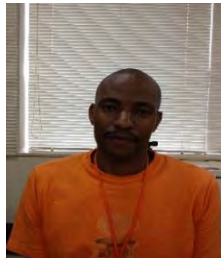
4-1 TV番組制作（ケニア）

(1) 計画

日程	ケニア (Nation Media Group)
5月19日(日)	15:30 渋谷ハチ公口集合、ミニバスで成田空港へ 17:00 空港到着 17:35 到着予定のEK318(エミレーツ航空)は16:57に着陸 19:50 JICA東京到着 車中事前説明
5月20日(月)	10:00-11:00 ブリーフィング(下村) 11:00-12:00 取材時の役割分担(下山・宮地) 14:00-18:00 バンタンデザイン研究所ロケ(恵比寿) 18:30-20:30 ケニアチーム歓迎会(白木屋)
5月21日(火)	10:00-12:00 しまむら三軒茶屋店ロケ 13:00-14:00 渋谷センター街ロケ 14:00-15:00 NHK放送センター見学 15:00-17:00 NHKインターナショナル(アムウェイビル)で打合せ及びロケ
5月22日(水)	10:00-13:00 渋谷109ロケ「SBY」「Cocolulu」他 15:00-17:00 文化ファッションインキュベーションロケ
5月23日(木)	11:00-13:00 原宿・竹下通り「ACDC原宿」「壺の蔵」ロケ 14:00-16:00 NHKインターナショナルで構成・編集打合せ
5月24日(金)	10:00-12:00 ロケ:デザイナー・時田智弘氏・アトリエ 13:00-14:00 昼食:アフリカンレストラン「カラバッシュ」 15:00-16:00 ロケ:東京タワー・俯瞰ショット
5月25日(土)	休日
5月26日(日)	休日
5月27日(月)	10:00-13:00 JICA東京SR13にて映像をFinal Cutに取り込み 14:00-18:00 部屋が変わりSR3で映像を取り込んだ後、編集開始。
5月28日(火)	10:00-18:00 コメント作成、ナレーション、ボイスオーバー録音。
5月29日(水)	10:00-18:00 編集後第一回試写。安藤氏、宮地氏から指摘を受け手直し。
5月30日(木)	10:00-18:00 セミナールーム17でケニアチーム完プロ。 13:30-15:00 TIC(JICA東京にて) TICAD-V本番を前にメディア招聘コーディネーター会議
5月31日(金)	10:00-19:00 パシフィコ横浜の国際メディアセンターIMCで打合せ。 ホールBのアフリカンフェア2013ロケ 13:00 ケニアのルト副大統領がフェアに立ち寄った際、ぶら下がりインタビューに成功。立ちリポを撮り、編集後ビデオをケニアにIP伝送。
6月1日(土)	11:25-11:35 安倍首相とケニアのルト副大統領とのバイ会談あり。 会談内容を中心にリポートを作りケニアへIP伝送。 *東アフリカ最大の港を持つ交通の要衝・ケニアのルト副大統領との会談で安倍首相は、日本の大手商社の進出が相次いでいることも踏まえて、

	企業の投資活動を保護する投資協定の締結に向けた予備協議を始めることを確認。
6月2日(日)	9:00 -19:00 ケニアのルト副大統領、資源エネルギー問題で日本政府に要請。パン・ギムン国連事務総長と会談、撮影。ケニア政府関係者に取材。
6月3日(月)	16:00-21:00 TICのセミナールーム16で、ファッション番組とTICADレポート2本の試写会、評価会、修了証書授与式。 夜サイゼリヤ幡ヶ谷駅前店で送別会。
6月4日(火)	22:00 -24:00 TICを22時に出て羽田空港へ送る。

(2) 参加スタッフ

Nation Media Group		
Ms. Gitundu Lorna Waitherero	TV Producer	
Ms. Wachira Catherine Wairimu	Program Director	
Ms. Choge Irene Jerobon	Reporter	
Mr. Akombo Kyalo Augustine	Cameraman	

(3) TV 番組制作

番組タイトル 「Fashion in Japan ～日本のファッション」

番組の長さ： 15分

撮影期間： 2013年5月20日(月)から5月24日(金)

放送予定： ケニア国内にて帰国後1か月以内放送。1年以内再放送可

番組のテーマとねらい： 日本は「クール・ジャパン」と呼ばれる新産業分野が国際的に評価が高い。マンガやアニメや若者向けのファッションである。特に若者向けファッションをリードする街が、東京の渋谷や原宿である。そこで渋谷・原宿にある日本を代表する若者ファッションのブランドや若手デザイナーなどを取材し、現代日本のファッション状況をレポートする。

内容： しまむら三軒茶屋店は最新のトレンドファッションから実用衣料まで、低価格（＝しまむら安心価格）で提供する店。高品質・高感度・低価格のプライベート・ブランドの開発に力を入れており、そのトータルクオリティーの高さで支持されている。郊外の住宅地の近くへ出店していたが、お客のライフスタイルの変化にあわせて、幹線道路沿い・商業集積地への出店が中心となり、現在は東京・大阪をはじめとした大都市への出店を積極的に進めている。日本を代表するカジュアルファッション。多くの日本人が好むファッションを知る。

「渋谷109」の8階にあるSBYは“アタラシモノ発見・カフェ”というコンセプトのショップ。店内に、メイクアップエリアが設置されており、メイク直しに必要な綿棒やコットン、巻き髪を作るアイロンなどを常備している。その他の取材・撮影箇所は、原宿・竹下通り「ACDC 原宿」、着物の「壺の蔵」、デザイナー・時田智弘氏アトリエ、文化ファッションインキュベーション渋谷など。

1) 事前準備

まず事前に日本側が日本のファッション概要の資料や取材先候補を用意した。ケニアチームは他の5カ国に比べ日本滞在期間が少ないので効率的な取材・制作が求められることとなった。

<取材対象候補>

1) しまむら 三軒茶屋店

〒154-0024 東京都世田谷区三軒茶屋 2-11-20

最新のトレンドファッションから実用衣料まで、低価格（＝しまむら安心価格）で提供する店。高品質・高感度・低価格のプライベート・ブランドの開発に力を入れており、そのトータルクオリティーの高さで支持されている。

郊外の住宅地の近くへ出店していたが、お客のライフスタイルの変化にあわせて、幹線道路沿い・商業集積地への出店が中心となり、現在は東京・大阪をはじめとした大都市への出店を積極的に進めている。

- ・取材目的：日本を代表するカジュアルファッション。
多くの日本人が好むファッションを知る。
- ・取材店舗：しまむら 三軒茶屋店
- ・取材内容：①店の売れ筋紹介

- ②接客のポイント
- ③売り場責任者のインタビュー
 - ・しまむらの魅力
 - ・売れ筋商品の動向
 - ・日本人が商品購入で注目するポイント
- ④英語で接客できる店員さんへのインタビュー
 - ・どのような外国人客が来るのか
 - ・どのような質問が多いのか
 - ・外国人に売れる商品はどのようなものか

2. 個人起業家の若手デザイナー 時田 智弘 氏
時田氏の作品を縫製するアトリエを取材

4. 時田氏が講師を務めるバンタンデザイン研究所（デザインの専門学校の取材）
（5月20日15時から）

- ・ファッションデザイナーを目指す学生たちを取材
- ・どのような教育を行っているのかを取材

5. 個人起業家の若手バイヤー
ご本人が駄目な場合でも店舗撮影を行う希望。

6. SHIBUYA 109

- ・取材目的：若者に絶大な人気を誇るファッションビルを紹介する。
- ・取材店舗：撮影可能な1～2店舗を取材
- ・取材内容：各店舗のファッションのコンセプトとデザインのポイント
各店舗の売り場責任者のインタビュー
 - ・お店の売れ筋商品
 - ・どのようなお客様が購入されるのか

取材店候補

① SBY

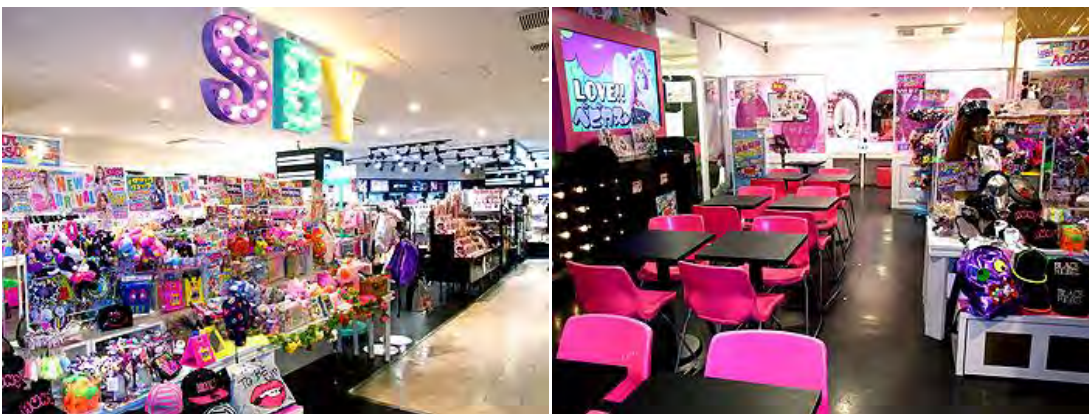


図1 渋谷109の8階にある店「SBY」

『渋谷 109』の8階にある“アタラシモノ発見☆カフェ”というコンセプトのショップ。店内に、メイクアップエリアが設置されている。メイク直しに必要な綿棒やコットン、巻き髪を作るアイロンなどを常備。さらに、10代向けの雑誌の最新号などが設置され、メイクアップの記事を参考にしながらメイクできる。携帯電話の充電ができることも支持されている理由のひとつだ。

② ネイルクラフト渋谷 109 店

“流行の最先端、渋谷 109 にあるネイルサロン”

流行のデザインを中心に豊富なサンプルを取り揃えており、スワロフスキーデコレーション商品も、ひとつひとつ手作りでアイテム数も豊富!!

③ NAVANA・WIG

“なりたい自分になれる”

バリエーション豊かなヘアウィッグで洋服や気分に合わせてイメージチェンジ！ ナバーナウィッグオリジナル耐熱毛は熱に強くドライヤーやコテを使ったアレンジができ、カラーは人毛に近いマットカラーなのでなりたいスタイルをすぐに実現可能。

7. 個人が経営する原宿ファッションの店舗

- ・取材目的：個人経営者にファッションで起業した理由を聞く。
 - ・ 起業の理由
 - ・ 資金調達の方法
 - ・ 雇用の状況
 - ・ 店舗のコンセプト
 - ・ 店舗売れ筋
 - ・ 今後の夢や展望

① BODY LINE 原宿

“ロリータファッションの激安ショップ”

ゴスロリ・コスプレなどのファッションアイテムの激安ショップ。ワンピース、ジャケットなどの洋服だけでなく、シューズ、アクセサリ、バッグ、ドロワーズやパニエといったインナーアイテムまでを取り揃える。ほとんどのアイテムを数千円で購入でき、ロリータファッションの女子たちで賑わう

② もしもしカワイイ原宿

東京の“カワイイをパッケージしてプレゼンする”土産物店

パステルカラーで統一された 30 平米ほどの店内には、顔ハメパネルやガチャポンが置かれ、寿司モチーフのアクセサリやTシャツ、お茶やチョコレートなど定番の土産物が並ぶ。そのほとんどが「カワイイ」と「原宿」をテーマに作られたオリジナル商品だ。ディレクターを務めるのは、フォトグラファーの米原康正さん。

「海外や地方からの観光客はもちろん、日常的に遊びに来ている人々にも向けて、日本独自のカワイイ文化を発信していきたい」と語る。

③ Vite!Vite!

カジュアルポップなレディース服を販売する竹下通りにある数少ない個人経営のお店。
リーズナブルな商品が並び、スタイリストも買いに来るなど掘り出し物も多数揃えるなど品数も豊富。



図2 渋谷109「SBY」のメイクアップルーム



図3 竹下通り「壺の蔵」でのロケ風景

Script Writing – Synopsis

Name: FASHION INDUSTRY IN JAPAN

Groups: KENYAN TEAM

NO	ITEMS	IMAGE	AIM/COMMENT/INTERVIEW	TIME	LAP
1	OPENING	CWS OF JAPAN/STREETS/PEOPLE CLAD IN DIFFERENT TRENDS & BUILDINGS	V/O: Japan a cosmopolitan city has seen a dynamic growth & change in its fashion industry...	40'	40''
2.	CURRENT TRENDS	CWS OF COCOLULU,S.B.T, SHAKIMURA,109 SHIBUYA & ACDC	V/O The introduction of street fashion, which is a blend of the western & traditional style has firmly laid claim especially among the youth.....	3.00''	3.40''
3	WHY THE CURRENT TREND?	CWS OF TOKITA (RENOWNED DESIGNER)	BYTE Explains evolution & growth of fashion industry in japan	40''	4.20''
4	VATAN INSTITUTE	CWS EST. VATAN INSTITUE, STUDENTS IN CLASS UP SOUND OF STUDENTS FROM VATAN EXPLAINING	V/O: 1. History of the institute.... 2. How its helps nurture talent.... Explaining dreams, how the the institute has produced great designers across the board with global outreach Institute has helped them.	4.00''	8.20''
5.	ROLE OF GOVERNMENT	MID CUE: IRENE CHOGE	V/O How the Government through the Ministry of Culture is supporting the fashion industry....	1.00''	9.20''
				2.00''	11.20''

6.	BUNKA INCUBATION	CWS EST BUNKA & SHOOTS OF SPACE CWS OF YUICHIS' DESIGNS CWS BY LEATHER DESIGNER (E.M.A)	NATS.... BYTE: YUICHI (EYE WEAR DESIGNER) The Government has helped upcoming designers such as me, by offering subsidized office spaces.... V/O Explaining trends in Japan fashion that is beyond clothes		
7	WOMENS' FASHION & CHALLENGES	CWS OF MALLS, TAKESHITA ST, MAKE UP, BAGS, STOCKINGS, SHOES & JEWELLRY	NATS.... BYTE STORE MANAGER (S.B.T) 1. Shopping trends of women and preferences.. 2. Dealing with competition... MID CUE: IRENE CHOGE The global obsession of having a slimmer frame through use of modern technology...	1.00''	12.20''
8.	KIMONO STYLE	CWS EST. ICHI- NOKURA, CWS KIMONO, CWS INSIDE SHOP & ACCESSORIES	V/O 1. Old is gold. The Kimono is worn during special occasions. The materials are locally sourced and It's partly a foreign income earner..... BYTE KATSYMI (ICHI-NOKURA)	1.30	13.50''

9.	CONCLUSION	VARIOUS BLENDS OF CWS SHOWCASING DIFFERENT FASHION STYLES	I don't fear for the extinction of the Kimono style. It's here to stay..... BYTE: TOKITA Fashion in Japan & the future. P.T.C IRENE CHOGE:	1.50	15.00"
----	------------	---	--	------	--------

4) 編集作業

編集作業はFinal Cut で4人が話し合いながら行われた。撮影の結果を踏まえて、編集のため議論した。基本的な構成に変更はないが、編集のために細部も検討し、音声の効果についても話し合った。



図4 JICA 東京での編集作業

5) 収録作業

ナレーションとボイスオーバーは Final Cut で JICA 東京の部屋やパシフィコ横浜でスタジオを使わず収録。インタビューは字幕ではなくて吹き替えで処理し、チーム全員が交代して吹き込んだ。



図5 音処理作業



図6 完プロに向け微調整作業

4-2. TICAD-V の報道番組制作と伝送フォロー（ケニア）

TICAD-V での取材報道活動

1. アフリカン・フェア
2. ケニアのルト副大統領インタビュー
3. 安倍首相とルト副大統領とのバイ会談・撮影
4. ケニア政府関係者取材

TICAD-V で制作した報道番組一覧

1. JAPAN TICAD V DAY 1
アフリカン・フェアとルト副大統領インタビュー
2. TICAD KENYA UN SECURITY
安倍首相とルト副大統領とのバイ会談、日本政府への要望について



図7 パシフィコ横浜からケニアへ IP 伝送

IP 伝送の状況

上記の2本の報道レポートはその日のうちにケニアに IP 伝送し放送された。



図8 試写会・評価会が終わると感謝の印に4人でケニアの歌を披露。

(まとめ)

期間的に他の5カ国より短い日本滞在となったが、ケニアからの手慣れた4人組のチームはカメラ、三脚、編集のFinal Cut用パソコンなどを持ち込んで効率的に仕事をしたと言える。

後処理をなるべく短時間で済ませるため、現場の立ちリポを多めに使うことや、日本語インタビューについては、英字スーパーでなくボイスオーバー処理することなどについて話し合い、その方向で編集が進んだ。

15分番組1本とTICAD Vのリポート3本を連日制作し、TICADリポ2本は当日のうちにケニアで放送された。残る1本はケニアに持ち帰ってもう少し肉付けしてから放送することだった。

5-1. TV番組制作（コンゴ民主共和国）

(1) 計画




取材テーマ： ～日本の農業、その問題点と解決 岡山と京都のケース～


<企画準備>

5月10日の段階で、コンゴ民のテーマが日本の農業と決まり早々にサーチ開始。まず、コンゴ民の農業の現状、何故彼らが「日本の農業」を選択したのかの背景を調べた。分かったことは、コンゴ民の貧困、食糧難、栄養失調など問題を抱え、その解決に「農業の生産性の向上」が国づくりの基本になる喫緊のテーマだと言うこと。一方の日本では、農家の高齢化が進み、農作物の自給率が40%を割る事態に直面している事実。そんな中、新しい農業として、京都の亀岡に水をあまり使わず、完全無農薬、無菌で、一年中安定した計画生産が可能な乾燥地帯での野菜作りに適していると謳う（株）スプレッドの野菜工場が、コンゴ民の将来の参考になるのではないかと思ひ至る。また、生産、生産管理、集荷、出荷、流通など全ての要となる農協JAの紹介は、同じ様な組織を持たないコンゴ民の良い情報になるのではないかと、更にリサーチを進めて、岡山に若者が中心となって農業経営を行い、自給率を向上させようと活動する「めざせ自給率60%倶楽部の存在を知る。こうして、コンゴ民チームは、岡山を中心に、帰路、京都の撮影を予定した。

(2) 参加スタッフ

招聘メディア：RTNC (Radio Television Nationale Congolaise)

Mr. Mavula Harris Dan	Producer	
Mr. Simon Kankolongo	Cameraman	
Ms. Tongu Walinzale Ida-Catherine	Editor	

Ms. Eyenga Lisamba Bobette	Reporter	
----------------------------	----------	---



大使館表敬訪問



地下鉄を利用

(3) TV 番組制作

番組タイトル 「L' Agriculture Japonaise - Réalité & Découverté 日本の農業～現実と発見」

番組の長さ： 14分

撮影期間： 2013年5月20日(月)から5月24日(金)

放送予定： コンゴ民主共和国内にて帰国後1か月以内放送。1年以内再放送可

内容： 「日本人は国産野菜を好むが自給率が落ち込んでいる…」というナレーションで始まり、岡山県でのJAを中心として生産から小売りに至る流通システムや、京都府亀岡市にある無菌・無農薬の野菜工場、高齢化問題と若年層の就農など、日本の農業が抱える現実と将来への展望を描いた。

岡山県瀬戸内市のキャベツ畑で収穫する森部夫妻へのインタビュー、収穫したキャベツを集荷して中央卸売市場へ出荷するJA、JA地区責任者へのインタビュー、中央卸売市場からスーパーマーケットへ運ばれ、店頭で並べられるキャベツ、若年層の就農によって自給率を上げるプロジェクトのリーダー、飯山夫妻へのインタビュー。

京都府亀岡市にある野菜工場「スプレッド」の社長、生産主任へのインタビュー、生産されているレタスの種の植え付けから収穫までの紹介など。

□ 番組のテーマとねらい

テーマは「日本の農業」その現実と発見（今後の展望）について。コンゴ民主共和国ではアフリカ第二

位の広大な面積の70%が耕地化が可能だが、実際には放置され荒れた土地、灌漑用水欠如などインフラ未整備、生産から消費までの一貫した流通システムが全国的に行きわたっていない、などの理由による慢性的な食糧不足とそれによる子供たちの栄養不良が大きな社会問題となっている。日本が抱える問題を検証し、コンゴ民主共和国との共通点、相違点を分析して自国の農業開発の参考になるかを探る。また、最先端の野菜工場を取材することにより、コンゴ民主共和国での将来の導入の可能性を提示する。



制作・技術指導



岡山牛窓地区での撮影風景



5/16-5/17 JICA TICにて制作準備の時間を取る

コンゴ民主共和国チーム 「日本の農業」取材先

▼(株)スプレッド（京都府亀岡工場）

路地栽培の野菜から、工場での人工光完全環境制御型の野菜生産へ。
天候に左右されず、完全密閉型の4階建ての工場で世界最大規模でレタスを栽培する。
その数、年間730万株。人工光完全環境制御型の野菜生産では世界最大の生産量、日本での野菜工場でのレタスのマーケット占有率もNo1。

今年3月、(株)スプレッドのアメリカ現地法人が、アメリカネバダ州の研究機関(ネバダ州立学術砂漠研究所 DRI Desert Research Institute)とパートナーシップ協定を締結。地球環境研究の最先端応用化学を活用して、過酷な自然環境下(乾燥地帯)での農業に新しい活力を与え、如何に効果的な農業を作るか、新しい産業の創出と環境教育の推進を図るなど、社会貢献に資する研究・開発を目指している。

農薬を全く使わず、無菌室での水耕栽培と光・温度・湿度のコントロールによって、24時間365日、安定的に野菜を供給。

水は完全循環型で、水資源の貧しい地域において、生鮮野菜を生産できる希望があり、今後の野菜工場の拡大が期待されている。農薬を一切使わないため、農薬を多用した時に排出されるCO2削減にも貢献。野菜の未来は、工場から。農業人口の減少を考えると、野菜工場は新しい農業の形として注目されている。

このような方向性を持った(株)スプレッドは、人口増、栄養不足に悩むコンゴ民主共和国にとって、新しい農業の形を考える上で参考になる。

▼岡山 JA、「めざせ自給率 60%」プロジェクトチーム

瀬戸内農業経営者クラブ・「めざせ自給率 60%」プロジェクトチームを取材希望。

「チーム 60%は、農業体験をしてもらうことを目的にしている非営利団体。

この「チーム 60%は、これから農業をやりたいと言う人を岡山県の農家に招聘して体験させるプロジェクト。普段は農作業で忙しい農家の皆さんに代わって、岡山県の農業普及指導センターが窓口になっている。

クラブに参加している農家を紹介、農作業の体験や、見学を支援している。

5月後半は、この地方では水稻の苗代、畑は堆肥撒き、玉ネギやズッキーニの収穫が予定されている。6月には、ジャガイモ、ミニトマト、有機栽培作物の収穫がある。

農業をやりたいと言う人を支援するプロジェクトは、農業人口が減っている現在の日本の農業への取り組みとしては、興味深いものがある。農業の魅力をどう発信するのか、その取り組みを取材。また、日本の農業での女性の活躍を紹介。

=参考資料= 構成

N	Etape 段階	Image 映像	Commentaire コメント	Durée 時間
1	Ouverture オープニング	Plan, situation géographique d' Okayama 地図、岡山の地理	Présentation et situation de la préfecture d' Okayama (Narration) 岡山県の紹介	1min 1分
2	Introduction sur l' agriculture D' Okayama 岡山の農業についてのイントロ	La production agricole à Okayama. Paysage des travailleurs au champ. Image d' un vieillard au travail 岡山の農業生産、畑での農業者の労働の様子、老人の働く様子	-Narration intro -Interview ナレーション、イントロ、インタビュー	2min
3	JA 農協	Historique et rôle de la JA Chaine de mise en circulation 農協の歴史と役割、流通	-Narration -Interview Yamamoto -Interview Moribe ナレーション、インタビュー山本さん、インタビュー森部さん	3min
4	Chaine de production 生産流通	Participation de la femme 女性の農業参加	-Narration -Interview Mme Moribe ナレーション、森部さん奥さんインタビュー	4min
5	Activité de l' équipe du projet d' autosuffisance alimentaire de 60%めざせ自給自足率60パーセントグループの活動	Image de la réunion グループの集会の様子	-Interview Iiyama 飯山さんインタビュー	1min
6	L' usine de légumes de Kyoto 京都の野菜工場	Plan de situation et présentation :Technique utilisées 状況説明と工場の地理的説明、技術の紹介	-Narration - Interview Inada ナレーション、稲田さんインタビュー	3min

7	Conclusion 結論	L' agriculture Vue panoramique des différentes séquences 多様なシ ーンの農村風景をパノラマ映像 で	-Narration	1min
---	---------------	--	------------	------

現地取材

5/20~5/22 が岡山、5/23-24 と京都に向かう。スタッフ 4 人には、NHK インターナショナル・コーディネーター上野、地方取材支援中村、通訳中嶋が同行した。



岡山瀬戸内市牛窓の農家森部夫妻を取材



岡山県瀬戸内市牛窓の農家取材を NHK 岡山が取材



岡山県瀬戸内市牛窓地区でレポート撮影



岡山県瀬戸内市牛窓地区で撮影指導をする



瀬戸内市牛窓地区飯山農園



めどせ自給率 60%倶楽部リーダー飯山氏取材



京都府（株）スプレッド野菜工場



レポーターが工場生産されたレタスを試食



（株）スプレッドを囲む水田でレポート



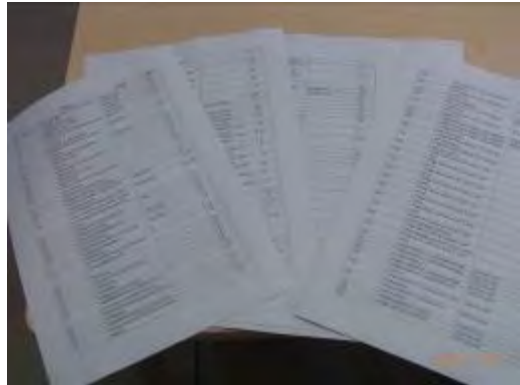
京都平安神宮取材

編集作業

東京に戻り、編集作業に入る。



素材を取り込みログインシートを作成



徹夜で書いたログインシート



編集機の操作指導の様子



編集機の操作指導の様子



ポストイットを使って構成作成



編集について議論



取材を受けるレポーター



編集中のプロデューサーと編集担当者



横浜 TICAD V レポート



横浜 TICAD V サイドイベント



取材・制作担当の試写を受ける



編集で追い込むプロデューサー

録音作業



@NHK インターナショナル



MA 音入れ作業

SEQUENCES	IMAGES	AUDIO	MUSIQUE	Q	DUREE	DUREE TOTAL
OUVERTURE	-fleur de pomme de terre -Feuilles de pomme en mouvement -Le radis	-Cris d'oiseaux-	-Pas de musique, cris d'oiseau -Musique traditionnelle		20''	00'20'
LA PROBLEMATIQUE DE L'AGRICULTURE JAPONAISE	-Images champs 1 -Images agriculteur avec petits pois en main -Images agriculteur aux champs de chou -Images agriculteur avec chou en main -Images ciboulettes -Images Mme Moribe aux avec tondeuse 1 -Agriculteur sur le tracteur -Une femme ramassant les herbes	-Le peuple japonais est un grand consommateur des légumes produites localement. Pourtant l'autosuffisance alimentaire n'est estimée qu'à 40% depuis au moins 15 ans de la consommation au Japon dont l'agriculture est un peu malade. L'archipel souffre de déclin du monde rural et de vieillissement d'agriculteur et de baisse du nombre de ces derniers. Cette situation est donc à la base de la dépendance alimentaire d'importation. Pour illustrer, nous avons fait le déplacement d'Okayama	-Musique traditionnelle Japonaise, en sourdine	N1	46''	01'06''

	<p>aux champs</p> <p>-Légumes sous une tente en sachet</p> <p>-Un vieil agriculteur aux champs</p>					
	<p>MAP OKAYAMA</p> <p>-Château d'Okayama</p>		Son tgv		00'10	00'16 "
	<p>INTRODUCTION BOBETTE</p>	<p>Bienvenue à Okayama. Une des préfectures du Japon à plusieurs facettes située à plus de 600 km de TOKYO la capitale .Une variété des légumes y est cultivée notamment le chou que nous vous proposons de découvrir à travers ce documentaire</p>			00'20'	01'36'
<p>L'AGRICULTURE A</p>	<p>-Faux direct BOBETTE 1</p> <p>-Images champs 2</p> <p>-Images champs 3, images rapprochées</p>	<p>- Située dans l'ouest de l'île de Honshu, la préfecture d'Okayama est étendue sur 7112km avec un climat doux et tempéré. Dans cette région, plus au moins 12% des terres sont réservées à l'agriculture. Pourtant ces terres restent non exploitées par manque d'agriculteur de plus en plus</p>	<p>Pas de musique</p>	N2	00'46'	02'22'

<p>OKAYAMA</p>	<p>-Vue de loin images champs avec des grandes tentes en sachet - IIYAMA récolte les petits pois avec panier jaune</p>	<p>fatigués par le poids de l'âge et la relève est incertaine. D'où une nécessité de rajeunir la population agricole pour améliorer et accroître le taux d'autosuffisance alimentaire.</p>				
<p>L'EXPLICATION SUR LA J.A</p>	<p>Vue de loin Bâtiment JA -Gros plan JA -Images réunion JA 1 -Image réunion JA 2 -Images engrais chimiques -Images des semences améliorées -Vues de dos YAMAMOT O images de la réunion JA -Suite images réunion JA - YAMAMOT O incliné -La main de YAMAMOY O ouvrant le robinet -Arrosage moderne 1</p>	<p>-Face à cette réalité, la JA a été créé pour accompagner les agriculteurs dans une sorte de coopérative pour faire un front commun contre les différents problèmes.</p> <p>-La JA organise des formations pour renforcer les capacités des agriculteurs sur l'utilisation des engrais chimiques ; le choix des semences améliorées. Au cours de ces formations, il reçoit des conseils pour faire face aux problèmes d'ordre climatique et même, pour l'application d'un système d'arrosage très pratique soutenu par le gouvernement.</p>	<p>Musique en fond sonore</p> <p>Pas de musique</p> <p>Seulement bruit de l'eau</p> <p>-Pas de</p>	<p>N3</p> <p>N4</p>	<p>00'18'</p> <p>00'37'</p>	<p>02'40'</p> <p>03'17'</p>

	-Arrosage les feuilles entraînent d'être mouillées		musique			
			Pas de musique			
	- INTERVIEW YAMAMOTO	La JA vise l'entraide, c'est-à-dire qu'en s'aidant mutuellement on a le contrôle de la production de légumes en augmentant sa valeur ajoutée. La JA s'est développée au Japon. Son travail des engrais, des insecticides agricoles et les semences, puis les revend aux agriculteurs membres de la JA. Comme vous avez vu tout à l'heure après la récolte des légumes on les rassemble et on les envoie ensemble au marché central selon la commande. Alors la JA organise la chaîne de production, de la production à la vente, afin de réaliser ce qu'on ne peut faire seul.		11	00'56'	04'13'
EXPLICATION CHAÎNE DE PRODUCTION	-Images champs de chou Moribe -Images travailleur au champ de chou Moribe Camionnette allant au dépôt de la JA	-En effet, la JA suit à la lettre la chaîne de production des légumes, de la récolte à la distribution. A partir des commandes reçues la JA rassemble les produits puis les achemine au marché central pour entreposage.		N5	00'22'	04'35'

	-Plan rapproché des choux au super marché					
		-C'est ici le lieu d'approvisionnement de supermarché et des détaillants.	Pas de musique	N6	00'32'	05'07'
	-Moribe et sa femme en plein travail -Moribe déchargeant sa camionnette -Carton des choux au dépôt de la JA	Mr Moribe est l'un des agriculteurs affiliés à la JA. 46 ans révolus, Mr Moribe est dans la production de choux depuis 13 ans. Son souhait et de voir beaucoup de jeunes le rejoindre dans l'agriculture.		N7	00'19'	05'26'
	INTERVIEW MORIBE	-Il ya beau des jeunes qui veulent travailler dans l'agriculture mais ils ne osent pas. Alors s'ils veulent le faire je souhaite qu'ils se précipitent.			00'16'	05'42'
LE GROUPE DE 60%		N8 Ces vœux est également partagé par le groupe des agriculteurs de Setoushi qui a initié un projet pour atteindre des 38 à 60 pourcent le taux d'autosuffisance alimentaire. Piloté par Mr IYAMA, le groupe de 60 travaille avec l'aide et le conseil de la JA et encadre des jeunes agriculteurs par des formations et des stages. Très positif, Mr IYAMA estime que ce projet produit déjà des résultats.			00'47'	06'29'
	INTERVIEW	Il ya de moins en moins d'agriculteurs actuellement et si	Pas de musique	I2	00'40'	07'09'

	IYAMA	on veut augmenter le taux d'autosuffisance alimentaire dans ce contexte, il faut avoir beaucoup plus de jeunes agriculteurs c'est l'objectif de ce projet. Les jeunes habitant les villes veulent devenir agriculteurs, mais ils n'ont que des connaissances plus théoriques que pratiques et ils ignorent les réalités du terrain.				
SUITE DU GROUPE 60	-Mme IYAMA avec une tondeuse à gazon	Dans l'agriculture japonaise, la contribution des femmes est remarquable. Elles contribuent à la récolte et tout ce qui exige beaucoup d'effort physique ne leur convient pas.	Pas de musique	N9	00'17'	07'26'
	- INTERVIEW Mme IYAMA	Je m'occupe des petits travaux. Je nettoie des légumes qui viennent d'être récoltés, mets des légumes en sac, fais des préparations pour les vendre.	Pas de musique	13	00'26'	07'52'
	-Images gros plan Mme Moribe	Selon Mme Moribe par contre, tout ce qui exige d'efforts physiques ne conviennent pas aux femmes. Elle explique.	Pas de musique	N10	00'10'	08'02'
	INTERVIEW MME MORIBE	je m'occupe de travail qui ne porte pas des choses lourdes auquel ne me demande pas le travail physique. On peut travailler ensemble à la récolte et la mise en carton mais pour charger et décharger les cartons sur le camion, je ne peux pas le faire. La semence et l'enlèvement de mauvaises herbes sont de mes travaux. Par	Pas de musique	14	00'43'	08'45'

		exemple, je pense que c'est mieux de récolter des fraises moi-même parce que je suis plus petite que mon mari et c'est un travail dont on a besoin d'attention.				
	Mme IYAMA avec sa tondeuse à gazon, une vue de dos.		Son de la tondeuse à Gazon.			08'57'
	Carte Kyoto		Son tgv		00'23'	09'20'
LA VILLE DE KYOTO	-Le temple d'or -Heian-jingū Intro bobette	Après Okayama nous voici à KYOTO, KYOTO c'est l'ancienne capitale du Japon situé à plus d'une heure en provenance d'OKAYAMA et ici nous allons découvrir une usine à légumes et sa spécialité, la production des laitues	La musique japonaise de KYOTO.		00'32'	09'52'
	-Images intérieures de l'usine 1 -Images intérieures de l'usine 2 - Images intérieures de l'usine 2 - Images intérieures de l'usine 3, laitue en gros plan	Une nouvelle perspective s'ouvre pour l'agriculture japonaise avec la nouvelle technologie. Il s'agit de la culture hydroponique telle que pratiquée par SPREAD dans son usine à légumes de KAMEOKA , à Kyoto. C'est une culture sans pesticide avec une lumière artificielle permanente, une utilisation rationnelle d'eau estimé à 5 pourcent. Ce qui favorise la réduction des gaz à effet de serre.	La musique japonaise, Techno.	N11	00'23'	10'15'

	INTERVIEW OOIWA	Les étapes de production, alors on met des graines d'abord et à partir de là, il y a trois étapes à suivre. On récolte des laitues 365 jours sur 365, tous les jours. Et on continue sur la production sans arrêt.	Pas de musique	I5	00'30'	10'45'
	Dégustation bobette	La voix de BOBETTE	Pas de musique		00'15'	11'00'
	--Images intérieures de l'usine 4 -Images intérieures de l'usine 5 --Images intérieures de l'usine 6, balayage de la droite vers la gauche des laitues	Créé pour produire continuellement avec 7,3millions des laites par un, SPREAD présente plusieurs avantages. Mr INADA est le PDG.	La musique Japonaise fin.	N12	00'31'	11'31'
	INTERVIEW INADA	avec ce système, on pourra augmenter le taux d'autosuffisance parce que ça affronte aux problèmes. Et puis, je crois que la stabilité de la production va nous porter l'augmentation de l'autosuffisance.	Pas de musique	I6	00'35'	12'06'
	-Images couple des vieillards aux champs -Mr. MORIBE -Mr. IYAYAMA -Mr. YAMAMOTO	Bien qu'étant développé sur plusieurs plans, le Japon connaît des problèmes pour son agriculture certes mais des efforts sont conjugués dans objectif principal d'améliorer le taux d'autosuffisance alimentaire. Avec la JA, nous l'avons remarqué, la chaîne de production est contrôlée, avec le	La musique Japonaise, jusqu'à la fin du générique.	N13	00'54'	13'00'

<p>CONCLUSION</p>	<p>-La réunion de la JA -Mme IYAMA avec tondeuse -La réunion du groupe de 60% -Mr. INADA -Photo SPREAD 1 -Photo SPREAD 2 -Gros plan laitue de SPREAD</p>	<p>groupe de 60 pourcent les jeunes sont invité et sensibilisé à intégrer le travail de la terre. Avec la nouvelle technologie utilisée par SPREAD on peut devenir agriculteur autrement. Autant des découvertes susceptibles d'inspirer les agriculteurs congolais à avoir un état d'esprit positif face aux difficultés de leur vie courante. A condition de les adapter aux réalités du pays.</p>				
	<p>Générique de fin</p>				<p>00'41'</p>	<p>13'41'</p>

(参考) 日本語ナレーション

日本の農業～現実と発見～

N1 日本の人々は地元で採れた野菜をたくさん食べます。しかしながら、日本の農業不振により、少なくとも15年前から自給自足率は40%にしか達していません。平和な田園風景は傾きつつあり、日本列島は農業従事者の減少、高齢化に苦しんでいます。この状況は、食料の輸入依存が引き起こしたものです。わかりやすく説明するために、岡山県に行ってきました。

【ボベットのレポート】

岡山県へようこそ！岡山県は首都東京から600km離れたところにあります。ここではさまざまな野菜が栽培されていますが、今回のドキュメンタリーでは、とくにキャベツに注目してみましょう。

N2 本州の西、中国地方に位置する岡山県は県面積が7112平方キロメートルの、気候が穏やかで温暖なところですが、この県では、少なくとも12%の土地は農地です。しかしながら、これらの土地は耕作されなくなる危険にさらされています。それは農業従事者が高齢化し、後継者が不足しているからです。ここに、自給自足率を上げるために農業従事者の若年化の必要性があるのです。

N3 この現実を前にして、農家の人たちをサポートし、さまざまな問題に対して共同体としての役割りを担っているのが農協です。N4 農協は農業従事者の能力を高めるために、農薬や肥料、品種改良のされた種についての講習会を行っています。この講習会の中で行われているのは、天候の変化などのさまざまな問題に対処するための助言や、政府や地方自治体の援助によって実用化された灌水システムを利用するための説明です。

【山本さんインタビュー】

N5 種まきから収穫、出荷までの生産工程にしたがって農協は農家をサポートし、さらに流通を担います。注文を受けたら、農協は野菜をとりまとめて中央市場に出荷します。

N6 この中央市場にスーパーマーケットのような小売業者が仕入れに来ます。

N7 森部さんは農協組合員の一人です。46歳になった今年、森部さんが農業を始めてから13年になりました。森部さんの願いは、若者が積極的に農業に参加することです。

【森部さんインタビュー】

N8 瀬戸内市の農家の間で結成された、食料自給自足率を38パーセントから60パーセントに引き上げることをめざすグループにおいても森部さんの願いは共有されています。飯山さんによって指揮をとられたこのグループは、岡山県の支援を受け、新しく農業を始める人を対象に農家で研修制度や農業実習を行っています。飯山さんは、このプロジェクトにおいてすでいくつかの効果が現われていると評価します。

【飯山さんインタビュー】

N9 日本の農業のなかで、女性の貢献は目を引きます。彼女らは、生産の工程において極めて明確な使命を果たしています。飯山さんの奥さんはこう言っています。

【飯山さんの奥さんインタビュー】

N10 それに対し森部さんの奥さんによると、身体的に労力を要するものは女性に向かないといます。森部さんの奥さんはこう言っています。

【森部さんの奥さんインタビュー】

【ボベットのレポート】

岡山県から京都にやって来ました。 京都はかつての日本の首都で、岡山県から特急で1時間のところにあります。ここでは、野菜工場におけるレタス生産を見てみましょう。

N11 最新技術は、日本の農業に新たな展望を開きます。京都府亀岡市にある、スプレッドの野菜工場での水耕栽培もそのひとつです。水耕栽培では、人工照明や土を使わない無農薬栽培をとりいれ、完全循環型システムによって通常の農業の5パーセントしか水を使いません。工場の生産責任者は生産の工程を説明してくれました。

【大岩さんのインタビュー】

N12 年間生産量730万株という継続的なレタスづくりをしているスプレッドは、多くの優れた資質をもっています。稲田さんがその社長です。

【稲田さんインタビュー】

N13 多方面での発展を遂げた日本ですが、たしかに農業生産の問題を抱えています。自給自足率の向上という主な目的に達するためには、さまざまな努力が行われています。それらの努力の中で印象に残ったのは、農協の流通管理と、めざせ自給自足率60パーセントグループによる若者への農業参加推進策です。スプレッドで使われているような最先端技術によって農業への新しい取り組みも行われています。日本でのこれらの発見は、コンゴの人々にさまざまな困難に際して立ち向かう前向きな姿勢をもたらせます。コンゴの今の状況にこれらを適応させればの話ですが。



「コンゴ民チーム7」

5－2．TICAD-V の報道番組制作と伝送フォロー（コンゴ民主共和国）

コンゴ民チームは残念ながら、TICAD-V の報道番組は取材したが、編集を完了できず、IP 伝送はできなかった。

6-1. TV 番組制作 (セネガル)

(1) 計画

■TV 番組制作 (企画準備・取材・編集) のスケジュール

5月16日

アドバイザーによる番組制作の概要説明を受けたあと、午後からは、今回の外部ディレクターが合流して、何を伝えたいか、どこを取材したいのかなどを考慮して取材先の検討を行い、番組提案表を作成。





5月17日

提案表に基づき、番組構成表を作成。

5月20日～24日

被災地である宮城県石巻市内のロケ

(2) 参加スタッフ

Radiodiffusion Television Senegalaise			
Mr. GAYE Cheikh Saad Bou	Realisateur	ディレクター (37 歳)	
Mr. Faye Ousmane NGARY	Journaliste	記者 (35 歳)	
Mr. SY OUSMANE	Monteur	編集 (43 歳)	
Mr. Faye Elhadji PAPA Abd Farba	Cameraman	カメラマン	



成田空港に到着したセネガルチーム

(3) TV 番組制作

番組タイトル 「衝撃とかすかな光」

番組の長さ： 16分

撮影期間： 2013年5月21日(火)から5月24日(金)

放送予定： セネガル国内にて帰国後1か月以内放送。1年以内再放送可

内容： 「太平洋に面した石巻市は、かつて日本有数の漁場であった・・・」というナレーションで始まり、東日本大震災で壊滅的な打撃を受けた石巻魚市場の社長を中心に上げるとともに、日本人の連帯意識にもフォーカスした。今もなお、津波の記憶が強く残る、被災地住宅に暮らす被災者へのインタビュー、津波が襲ってきたときの資料映像、壊れたままの建物や津波にのみこまれた車の山、被災者の心や体のケアを行うボランティアの人々、被災した小学校の校長先生、復興計画について石巻副市長へのインタビューなど。

□ 番組のテーマとねらい

テーマは「被災地の復興過程」について。

セネガルは毎年のように、集中豪雨による洪水が頻発しており、市民の日常生活に大きな影響を与えている。そのため、東日本大震災による津波の被害に大きな関心を寄せており、被災地取材を強く希望した。日本のある一つの町が自然災害の後、どのように復興したのか、宮城県石巻市を例に、その過程をセネガルに紹介することによって、自国での取り組みに対するヒントを探る。また、同時に、集団で体験したこの悲劇に関連して、日本人の連帯意識や国民感情についても言及する。

1) 事前準備

急きょ被災地取材が決まったということもあり、以前、被災地を取材したことのある外部プロダクションのディレクターに依頼して、石巻市の概要・被災状況の資料や、取材希望先のアポ取りを行った。

<取材対象候補>

- ・石巻魚市場・須能社長

津波で壊滅的な被害を受けたが、現在は、水産業の復興と新市場の再建に奮闘中。

- ・石巻市長
 - 石巻の復興計画、その進捗状況
- ・もっとも被害が大きかった門脇小学校（現在は、門脇中学校内に間借りしている）
 - 校長、教頭先生に状況を伺う。
- ・仮設住宅で暮らす被災者の方々。
 - 暮らしの様子。当時の状況など。
- ・ボランティアの方々
 - 企業が行うボランティア（積水ハウス）
 - 世界から来るボランティア（イタリアのマッサージ）
- ・復興のモニュメント、慰霊碑など。
- ・石巻市教育委員会
 - 小学生の心のケア
- ・からころステーション
 - 被災者のメンタルケアを行っている。

<取材構成案>

Script writing- synopsis

Senegal
group: Ethiopian

Name:

No	ITEMS	IMAGE	AIM /COMMENTS /INTERVIEW	TIME	LAP
1	ハンガリ記者 [イントロ]	- パソコンの? - パソコンのカメラ - ワールドピース(日本 石巻、市場)	コメント モノローグ 日本の説明. 津波の改じ	後で 決定	
2	石巻市内社長宅 [社長紹介]	社長の引きの映像 自宅	簡単な紹介(社長自身と 工場について) 番付目の取構築によって目的、プロセス		
3	市場社長 石巻市街の紹介	社長の街の映像 石巻市の紹介	オフ) 石巻の歴史についての 社長コメント		
4	新しい市場 [魚市場の紹介]	映像 社長の寄りのカット	社長インタビュー / コメント	→ 魚市場 説明して → 特産品 は何か	について ぐれまが 何か
5	古い市場 [市場の津波被害]	映像 津波の影響から 昔の昔りのカット	社長インタビュー 津波被害被害の資料映像	→ 市場の 歴史に 下 → 津波が 起きた時.	について さし 起きた時.
6	津波の被害 [津波の被害当時の様子] 資料	津波にの木の被害の様子 津. 被災者	雰囲気、水の音作り インタビュー	→ 津波が 来た時 のとき 何を したか	
7	被災者 [津波の当時の様子]	古い市場 → 新しい市場 (13.07.13)	2年後 社長インタビュー	→ その時 何を したか	
8	市場の復興 [六つの津波の特産品]	復興した市場の様子	復興した市場のインタビュー	→ 市場の 復興 どう 言っ たか	
9	市場の復興 [市場の復興]	市場に復興の様子	インタビュー	→ 再建は 大変だったか → 再建は 大変だったか	
10	社長の再建 [市場の再建]	市場に復興の様子 昔の昔りのカット	インタビュー		
11	市場の再建 [市場の再建]	市場に復興の様子 昔の昔りのカット	インタビュー		

Script writing- synopsis

Senegal
group: Ethiopian

Name:

No	ITEMS	IMAGE	AIM /COMMENTS /INTERVIEW	TIME	LAP
12	漁港 魚市場の経済力	生活の様子 舟、車前送、Bを上げ	野田 社長インタ	→	漁港から局く 水産物の量は何トン?
13	市役所	市役所のカー			
14	「被災者の心支え」 基本の社会福祉 (学校、幼稚園、 保健所、心理介)	津しん(子(災)への 映像(中)	市長 心理学者とのインタ 被災者の心理ケア 市長	→	市長へ 震災から2年 今 はどの程度 復興計画 にあるか
15	「市の復興計画」 インタビュー (市長)	事務局 市長	市長 インタビュー	→	2年ほど どのよう に復興計 画を立て ているか
16	「子供の学校生活」 市長 副市長 「学校生活と予算」	副市長	校長 インタビュー	→	自己負担 予算に おいて どのよう に 対応 しているか
17	市場社長に 「今後の希望」	新しい市場 展望	インタビュー	→	津波 生活が 今後の 展望は
18	インタビュー	待機のカー	音大 (3)		

2) 現地取材

取材内容が固まったところで、5月20日に宿泊地の仙台に向かった。スタッフ4人には、仏語通訳、取材コーディネーター、セネガル担当コーディネーターが同行した。



津波が来たときの水位を示す、
魚市場社長の須能さん



通訳を通じて、イタリア人ボランティア
を取材



被災地の小学生との交流



津波に襲われた車を撮影



“がんばろう！石巻”のモニュメント



門脇小学校の校長先生を取材

セネガルチームは、インタビューする相手の足元だけや、眼鏡越しに見る風景を撮るなど、撮影方法にこだわりが見られた。

番組タイトルは、初めから”Heurts et lueures”（衝撃とかすかな希望の光）と決めていた。

Senegal Team Project Proposal

- Title: ”Heurts et lueures”
- Time: 16 minutes
- Aim: To report the solidarity of the Japanese people and reconstruction plan of the city after the catastrophic damages in Ishinomaki.

3) 編集作業

東京に戻り、編集作業に入る。撮影の結果を踏まえて、編集のための構成表を検討した。基本的な構成に変更はないが、編集のために細部も検討し、テロップの入れ方やカメラで収録した音の調整を行う。

Final Script

全体 16'39" NO:1
 7/21/1978 杉野 敏夫

Name: Heurts et Luereux

Group: Senegal

No.	Items (項目)	映像	コトバ & イメージ	TIME	LAP	本 編 の 時 間
1.	オ-プニング	タイトル 衝撃と光	SE: 鼓動の音	7"	7"	
2	石巻の地図	地図①	静かな海(SE) N: 仏語 2" 石巻の説明	15"	14"	21"
		地図②	やまの音楽	14"	14"	
3	市場の社長	社長インタビュー	現場音	43"	2'12"	
		街- 船	"	26"		
		社長インタビュー	"	45"		
		二つね市場	ハード音楽 N: 仏語 市場の説明	18"		
4	被爆者	被爆者インタビュー	海音 風音 ハード音楽		2'48"	2'45"
4	被爆者	浪① 男性	海音 風音 + (SE) N: 仏語 浪の説明	38"	2'35"	
		男性インタビュー	現場音	38"		
		女性インタビュー	現場音	38"		
		津波映像	ハード音楽② N: 仏語 当時の状況説明	41"		
					5'23"	5'54"

Final Script

Name: Heurts et lueures

Group: Senegal

No.	Items (項目)	映像	コトと人々		LAP
5	仮設住宅	集会所(集)	やい音楽②	N: 仏語 スルメ解消 の方法	51"
		女性たち マサニ	現場音		42"
		体操をする女性 マサニ	現場音	N: 仏語	19"
		子供 ボランティア の人	現場音		30"
		くつぎ女性たち	現場音	N: 仏語	24"
		家上の女性	やい音楽②		37"
		女性の人々	現場音		10"
		男性の人々			41"
		仮設住宅 全景	現場音	N: 仏語	21"
					9'48"
					10'02"

Final Script

NO: 3

Name: Heurts et lueures

Group: Senegal

No. Items (項目)	映像	サウンド			LAP
6. 小学校	校庭の遊具 子供たち	現場音 + 楽い音楽	N:仏語 学校の説明	31"	1'10"
	校長先生 インタビュー	現場音		39"	
7 心のケア	作業 ^{習字} の 外二つの部屋	現場音	N:仏語	56"	2"
	心理カウンセラー インタビュー	現場音		1'04"	
8 新魚市場	新市場の 内部 の様子	現場音 + 数人の話し声 足音 漁船の 気笛	N:仏語	54"	2'25"
	社長インタビュー	現場音		45"	
9 市役所	市役所内部	現場音	N:仏語	19"	50'
	副市長インタビュー	現場音		31"	
10 インタビュ	山上から見た 市の全景 ランプの炎	優しい音楽② + 風の音(FF) 最後に11/22 の声(SE)	N:仏語 将来に向けた の展望	40"	40'
	11 エピローグ			15"	
					17'03"

6-2 TICAD-V の報道番組制作と伝送フォロー（セネガル）

- TICAD-V での取材報道活動

「インクルーシブでダイナミックなアフリカの開発」（5月31日シンポジウム）

「気候変動に対するレジリエンス：水、エネルギー及び食料安全保障の視点から」（6月1日セミナー）などのほか、関連イベントを取材。本国からニュースクルーが別に来ているので、TICAD のニュース伝送は行わず、収録した素材は、帰国後編集して放送の予定。



原田インター理事長から修了証書を渡されたンガリ記者



JICA アフリカ部宋戸参事役と正装のセネガルチーム

7-1. TV番組制作（カメルーン）





(1) 計画

TV番組制作（取材）のスケジュール

日程	カメルーン (Cameroon Radio and Television)
5月21日(火)	08:00 JICA 発。 やまびこ 55号 東京 9:40-12:14 一関 着。 12:30 ロケバスで陸前高田へ。 14:00 陸前高田に到着。市街地跡をロケハン 15:00 ボランティアセンター取材。 18:30 ロケ終了後、一関へ。 20:00 「蔵ホテルーノ関」にチェックイン
5月22日(水)	06:00 朝食後、陸前高田へ出発。 08:00 陸前高田市役所仮庁舎に到着。庁舎内外を撮影 08:30 陸前高田戸羽市長にインタビュー。 09:00 ワタミ宅食コールセンターを取材。関係者にインタビュー。 11:00 「きのこのSATO」開所式を取材。シイタケ栽培施設を撮影。 12:00 昼食後、周辺を撮影。 12:30 きのこのSATOへ。周辺取材。 13:00 ワタミ社長と、SATO社長、両社長にインタビュー。 14:00 「みんなの家」取材、インタビュー撮影。 15:30 仮設住宅取材。自治会長にインタビュー。 17:00 漁港を撮影。昆布養殖漁業者にインタビュー。 18:00 ロケ終了後。一関へ 19:30 「蔵ホテルーノ関」に宿泊
5月23日(木)	08:00 朝食後、陸前高田へ出発。 08:30 (株) グランパ阿部社長と合流、陸前高田へ。 10:00 グランパファーム・野菜栽培工場を取材、社長にインタビュー。 12:00 スーパー店頭でグランパブランドのレタスを撮影。 12:30 昼食 13:00 市内各所で撮影。 14:00 「高田松原を守る会」鈴木会長と合流。松の苗床を取材。 15:00 一本松前で鈴木会長にインタビュー、一本松を撮影。 16:00 市内各地でスタンダップ・リポートを収録。 17:00 ロケ終了後。一関へ 18:30 「蔵ホテルーノ関」に宿泊
2月24日(金)	07:00 ホテル発、陸前高田へ。 09:00 ボランティア取材。流失した自宅後で畑作をする未亡人を援助。 10:00 農作業援助で畑の草引き。ボランティアの参加理由と、家族を亡くした被災者にインタビュー。 11:00 周辺取材後、一関へ 12:30 一関着。昼食後、東京へ。

	13:00 昼食 13:40 東北新幹線で東京へ。 17:00 東京駅着。大手町駅まで歩き、千代田線で代々木上原へ。
--	--

(2) 参加スタッフ

Organization : Cameroon Radio and Television		
Ms. ONDOUA ELLA epse NDIBI Agness Henriette Solange Scolastique (48)	R e alisatrice Producer	
Mr. Olivier KINGUE MOLLI (41)	Journaliste Reporter	
Ms. NGOUBOBONG BAGNAKA Solange (43)	Monteuse Editor	
Mr. ABENG MEFOE Julien Vianney (33)	Cameraman	

(3) TV 番組制作

番組タイトル 「RIKUZENTAKATA : Les Modeles de reconstruction」

「陸前高田：復興のモデル」

番組の長さ： 15分

撮影期間： 2013年5月21日(火)から5月24日(金)

放送予定： カメルーン国内にて帰国後1か月以内放送。1年以内再放送可

内容： 陸地に向かって押し寄せる巨大な山脈のような津波、東日本大震災の津波は、ヘリコプターによるハイビジョン映像が記録された。陸地に襲い掛かり、住居や田畑を蹂躪する津波の映像が世界中に配信され、ニュースを見る人々を釘付けにし、震撼させた。

あの日から2年あまりが過ぎた。瓦礫が片づけられた被災地は、空き地と草原ばかりが目立ち、点在する鉄筋コンクリートの廃墟が、取り壊される日を待ち望むように空虚観を漂わせている。

陸前高田市は中心市街地が全滅し1800人が亡くなった。個人の農業と漁業が主な産業だったが、わずかな稲作と、わずかな養殖ワカメが取れるようになっただけで、田畑も海も荒れ果てたまま放置されている。巨大な防潮堤が一部に姿を見せ始めているが、市街地の復興はまだ手つかずで、住み慣れた家を奪われた人々は仮設住宅で細々と暮らしている。

そんな陸前高田市で、立地条件を選ばない産業が新たな施設を開設し、他の被災地に先駆けて復興への道を歩み始めた。コールセンターは日本中から注文を受けるが立地条件を選ばない。固有の栽培技術を持つ施設園芸のシイタケ栽培会社が、新たな設備投資に踏み切った。塩害の心配がない水耕栽培の巨大な円形水槽が、何棟もの円形テントを連ねてレタスを通年栽培する。いずれの経営者も進出の動機を、被災者に生活の手段と現金収入をもたらすためと答えている。

七万本の松の防風林からたった一本だけ生き残った松に励まされて、もう一度人々が愛着を持って住むことができる郷土を取り戻そうと、立ち上がり始めた陸前高田市の人々の、今を描写する。

番組のテーマとねらい： 何の関係もなかった人に、今の境遇が悲惨だからと無償で手を差し伸べる。ボランティアの精神はキリスト教や仏教になじみがないと理解しにくいし、育まれることが無い。津波の被災者を救ったのは、日本中から集まった無名の無数のボランティアたちだった。

日本で起きた巨大津波災害は、津波の大きさに比べて被災者の数は意外なほど少なかった。この陰には、日頃の防災意識の高さと、数限りなく繰り返された避難訓練が存在している。日本の国土では巨大災害が繰り返される。しかし、災害が起きても被害を小さくすることは可能だという発想が、この被害規模の少なさをもたらしている。

□ 取材対象候補

○ボランティア精神に対する理解

カメルーンには、無関係の人間に無条件に助けの手を差し伸べるという考え方は、余りないということだ。そこで、被災直後から集まり始めたボランティアが、何の代償を求めないで被災者に無償奉仕をする動機について取材する。

○公的施設の活動

市役所の被災前の日ごろの防災活動の状況取材を通して、住民に対する避難訓練と防災意識の徹底について取材する。

市街地の復興に向けての動きと、実際の進捗状況を戸羽市長にインタビューする。

○ワタミ宅食コールセンター

津波の被災者に、いち早く職場を提供し、雇用と収入を確保しようとしたのは、全国に顧客を持つワタミ宅食で、コールセンターなら立地条件を問わないし、設備投資も少額で済むことに着目し、2012年2月に陸前高田にコールセンターを開設した。開設に至った一番の動機を取材する。

○株式会社「きのこのSATO」

ワタミグループが支援するNPO法人 みんなの夢をかなえる会が開催した「みんなの夢アワード2012」に被災地特別枠として出場し、最優秀賞を受賞したのは、陸前高田で被災前からきのこを栽培していた株式会社「きのこのSATO」。2000万円の賞金とワタミからの出資金をあわせて新しいキノコ栽培施設を被災地の一角に新設し、5月22日に開所式を行う。タイムリーな催しを取材する。

○「陸前高田みんなの家」

被災者自身が被災者自身のために集会所を運営する。このコンセプトで菅原みき子さんが2011年11月頃から大石に仮設で建設したテント小屋は、被災者が元気になれる場所、ボランティアと被災者が集う場所として運営されていた。菅原さんに対し、陸前高田市出身の写真家島山直哉氏と知人の建築家の伊東豊雄氏、乾久美子氏、平田晃久氏、藤本壮介氏の5人が、被災した丸太を転用する「みんなの家」と呼ばれる10坪ほどの小屋を無償提供した。陸前高田市内で市民や県外の方々に交流の場を提供するNPO法人として、再出発した「陸前高田みんなの家」を取材する。

○仮設住宅

狭い、暗い、冬は寒い夏は暑いなど問題の多い仮設住宅ではあるが、そこは、家族だけで住める憩いの場所でもある。仮設住宅に住む被災者の暮らしを取材し、復興へと気持ちを切り替えつつある今の様子と、たどってきた道筋を自治会長さんに取材する。

○グランパファーム陸前高田

株式会社グランパファームは、神奈川県で巨大テントを使った水耕栽培で野菜工場を運営する会社。被災して跡形もなくなった陸前高田市の農業研修センター跡地を借りて、直径30メートルの巨大なドーム型植物工場8棟を建設しレタス栽培に乗り出した。被災地は海水をかぶったため、塩害でそのままでは野菜栽培はできない。ドーム型植物工場は水耕栽培のため、塩害の影響がなく、季節に関係なく周年栽培・収穫が可能。進出に至った動機を阿部社長にインタビューする。

○奇跡の一本松

日本の原風景に白砂青松という景色があり、日本各地で砂浜と松原がその美しさを競い合い、郷土の自慢話が交わされている。陸前高田市には岩手県を代表する高田松原と呼ばれる防潮と防砂を兼ねた樹齢300年の7万本の松林があった。高さ10メートルを越える津波の直撃を受けた松原は、たった一本を残し、すべてなぎ倒された。ただ一本残った松の姿に、頑張れと励まされたという被災者は多い。「一本松で高田松原を守る会」の鈴木会長に郷土を愛する気持ちを取材する。

企画構成案

Name: RIKUZENTAKATA : Les modeles de reconstruction

Groups: CAMEROON TEAM

NO	ITEMS	IMAGE	AIM/COMMENT/INTERVIEW	TIME
1.	オープニング	高田松原・津波以前 陸前高田市のイメージ	陸前高田市の地理的な位置、以前の人口・家屋など	0' 30"
2.	陸前高田市の紹介	市役所仮庁舎 港と働く人々 仮設住宅 作業中のボランティア “みんなの家”	3. 1 1 から 2 年 3 月後の陸前高田市の現況 市長とのインタビュー Q 1. 復興のために最も優先させるべきことは何か。 Q 2. 復興にはあとどれくらいの時間がかかるのか。	2' 00"
3.	ボランティア活動とワタミの試み	ボランティアの作業 ワタミ宅食コールセンター	被災者との連帯感はどのように育まれていったのか。 ボランティアに参加した動機は何か。 コールセンターでの被災者の仕事の様子。	2' 45"
4.	陸前高田の漁業	港、漁業者、二条の仕事、魚の漁、漁船。	被害に規模。時間のかかる復興。善意による漁船の提供。	1' 30"
5.	雇用機会確保と創出手段	ワタミコールセンター きのこのSATO プラントファーム陸前高田	社旗経済部門への援助。 陸前高田の被災者に生活の手段を提供する。 ワタミ社長へのインタビュー Q. 住民の生活改善にこうした試みはどのように役立っているのか。	3' 00"
6.	被災者の日常	みんなの家	被災者の現在の生活環境とその現状と課題。 被災者のつつましい生活ぶり 復興への見通しや希望についてインタビュー	
7.	今後の見通し	現在の市内の様子 街を行き交う人々 松原の跡地	災害に備える。避難訓練や防災意識の形成をいかにして充実するか。	2' 30"

		エンディング	<p>住民たちの郷土に対する愛着心を通して、復興への意欲を描き出す。</p> <p>松原を守る会会長インタビュー Q. どのようにして松原を復元しようとしているのか。</p> <p>陸前高田市長インタビュー Q. 高田松原は市にとって何を象徴しているのか。</p> <p>住民と松原のつながりを通して、郷土に対する愛着と復興への威容を描く。</p>	
--	--	--------	--	--

SCRIPT WRITING-SYNOPSIS

RIKUZENNTAKATA :

Les modeles de reconstruction

Groupe : Agness, Solange, Olivier, Julien



大使館表敬訪問



TICにてプログラム説明



陸前高田取材風景



陸前高田市長へのインタビュー



きのこの SATO 開所式



グランパファーム取材



グランパファームインタビュー



奇跡の一本松取材



わたみコールセンター



ボランティア活動取材

7-2. TICAD-V の報道番組制作と伝送フォロー（カメルーン）

TICAD-V での取材報道活動

5月31日

メディア・インフォメーションセンター視察。アフリカン・フェア取材。
カメルーンのブースを撮影、JETROの担当者インタビューを取材。
カメルーンへのIP伝送とYouTubeにアップ。

6月1日

「開会式」を取材。
JICAセミナー、「Challenges for Universal Health Coverage」を取材。

6月2日

JICAセミナー「Economic Transformation of Africa」を取材。
全体会合5「包摂的で強靱な社会」を取材。
カメルーン国家主席代理と岸田外相の個別会談冒頭取材。

6月3日

「閉会式」を取材。
「共同記者会見」を取材。
ガボン共和国大統領にインタビュー。

(2) TICAD-V で制作した報道番組一覧

6月1日

「首脳記念撮影」
「開会式」

6月3日

「閉会式」
「共同記者会見」

(3) IP 伝送の状況

カメルーンチームは、カメルーン国内での映像素材の交換に IP 伝送を活用しており、来日前に準備していたカメルーン国営放送の FTP ファイルサーバーを利用していた。



TICAD メディアセンター



カメルーンチーム

8. 総括

(1) 放送メディアを活用することの重要性

今回のアフリカメディア招聘プロジェクトの目標は TICAD V に併せて、アフリカ 6 か国のテレビメディアを招聘して日本を紹介する TV 番組を制作してもらうことと、TICAD の会議及びそのサイドイベントをニュース取材して本国で放送してもらおうというものであった。また、日本を紹介する TV 番組は、単に日本を紹介するだけでなく、アフリカの国々の抱えている何らかの開発課題を解決するヒントを得られるものを作ることであった。

TV 番組のテーマについては事前に招聘元(NHK インターナショナル)で取材可能性があり、日本紹介と現地国での開発に資するであろう分野を選び出し、事前のアンケートで優先順位をつけて 3 つのテーマを選んでもらい日本側で決めることとした。最終的にテーマは次の通りに決まった。

ナイジェリア	日本の母子保健
エチオピア	日本の幼児教育
カメルーン	震災後の日本 (陸前高田)
セネガル	震災後の日本 (石巻)
コンゴ民主共和国	日本の農業
ケニア	日本のファッション

滞在中に、6 チームとも見事に 15 分のドキュメンタリー番組を完成させ本国に持ち帰った。また、TICAD のニュース番組についてもコンゴ民、セネガルを除く 4 か国で番組を完成させ、IP 伝送を実現させた。TV 番組のオンエア後の反響についてはまだ 1 か月ほど待たねばならないが、TICAD のニュース番組については、IP 伝送で即時に本国に伝送されオンエアされたため、大きなインパクトを得た。

現在、世界ではインターネットやソーシャルメディアなどさまざまなメディアが活用され出しているが、アフリカではラジオを含めた放送の果たす役割はいまだに大きく、多くの人々に、多くの情報を、同時に伝達する手段としては抜きんできている。

TICAD (=アフリカ開発会議)もスタートして今回で 5 回目、20 年たつが、残念ながらアフリカの人々の間で知名度が高いとは言い難い。もっと積極的に、現地の放送メディアを活用すべきである。日本で多くの報道番組を作って国際放送で放映しても、アフリカの人々に伝わることはほとんどない。

今回の現地放送メディアの招聘活動は、改めて現地放送の重要性を証明した。今後も継続的に行って招聘地域を広げてゆき、日本の TICAD の活動の成果をアフリカ諸国の人々に直接発信してゆくことは意義があり重要であると考えます。

(2) アフリカのジャーナリストネットワーク創設の提案

今回招聘した 6 か国、24 名のメディアから、全員の署名入りで「アフリカジャーナリストネットワーク創設の提案」(添付参照)が JICA 宛に発出された。これは、TICAD や日本の ODA に焦点を当てて、今後継続的にフォロー、取材してゆこうという自発的提案である。これは、今回 1 か月間日本に滞在し、日本の様々な場所に行き、色々な人に取材して、親日的になったメディアからの前向きな提案である。こういったネットワークを大事に育て、6 か国に限らずアフリカ全 54 か国にまで広げてゆくことが、TICAD の成果をアフリカ諸国の人々にアピールするためには重要である。今回、日本は次の TICAD-VI に向けて 1.6 兆円の ODA 援助をコミットした。このコミットメントを実現させ、アフリカ諸国の人々に感謝され価値あるものにするために、今後アフリカジャーナリストネットワークを組織化し、発展させて

ゆくことが期待される。

(3) 今後のメディア招聘への提言

次回以降メディア招聘をする時のために、今回の反省点を含め提言を以下にまとめる。

(3) - 1 事前準備期間

今回、業務委託契約締結(=4月22日)からメディア来日(=5月8日)までほとんど時間がなかったことで、番組のテーマ決定について、十分メディアの方々とコミュニケーションをとる時間がなかった。そのため、来日してから「こんな希望ではなかった。」と行き違いがあつて、取材先のアレンジなど最後まで響いた。番組のテーマ決め、取材先選定は番組制作にとっては非常に重要なことなので、事前に十分時間をとって決めてゆく必要がある。

(3) - 2 事前調査

今回招聘されたメディアクルーにはその技量においてばらつきがあつた。5年間以上の番組制作経験のあるもの、という基準で選抜されたはずであるが、実際には、番組制作は初めてで、初歩的なところから始めなければならないところもあつた。できれば、日本から専門家を派遣し、事前に先方の技量の把握や、テーマ決め、取材内容について事前調査して実施することができれば、日本での作業がより効率的に行え、より良い番組ができると考える。

(3) - 3 撮影・編集機材持ち込み

今回、ケニアチームは自前の撮影機材・編集機材を持ち込み、番組を制作した。普段自分たちが使っている機材を持ち込んでの取材活動だったので、機材操作に慣れる期間が無くて済み、番組制作に集中できた。他の5チームは、技量の違いはあるにせよ、編集機の操作方法に慣れるまでに時間を要した。次回以降、原則番組制作機材は自国から持ち込みで招聘するのも、一手段と考える。作業も効率的に進められることと、招聘予算も節約できる。

MEMORANDUM ON THE CREATION OF A NETWORK OF TICAD JOURNALISTS

PREAMBLE

We, the journalists of the African media invited on the "TICAD V 2013 – African Media Programme," consisting of the following members:

Francophone Group

	Journalists	Cameramen	Editors	Directors
Cameroon	Olivier KINQUE	ABENG MEFOE Julien Kamuey	NGOUBO BOBONG BAGNAKA	ANDOUA ELA Epe NDISIAGUE Henriette S.S.
Senegal	Ousmane Ngaly FAYE	Pape Laye FAYE	Ousmane SY	Cherich SABO BOU GAYE
DR Congo	BOBETTE EYENGA	KANKOLONGO SIMON	IDA CATHERI NTONGU	ARIS MABULA

Anglophone Group

	Journalists	Cameramen	Editors	Directors
Nigeria	Segun LAWALE	Muhammad GARBA	A. D. DOKPO	Halima MUSA
Ethiopia	seable wanjale ASSEFAL	Ambred MOHAMMAD	BERHAOU GELAN	M8 KU WAWANT Y. SHAWK
Kenya	IRENE CHOGE	AUGUSTINE KYRO	LORNA GITUNDU	CATHERINE WAKHARA

Have resolved to create a network of TICAD V journalists, named the "TICAD NETWORK OF JOURNALISTS."

I BACKGROUND AND PURPOSE

Whereas the Japanese TICAD (Tokyo International Conference on African Development) vision for African development celebrates its 20th year with the hosting of TICAD V in 2013; a vision based on African countries taking greater development initiatives,

The people of Africa have not yet sufficiently grasped the extent of Japanese involvement in the processes of African development. In spite of this, from year to year since 1993, the date of the first TICAD, through 2012, almost all commitments undertaken by Japan within the framework of TICAD resolutions have been fulfilled. The statistics for Japanese ODA (Official Development Aid) to Africa give clear testimony to this. The latest total for Japanese ODA to Africa, for example, was 1.8 billion dollars in 2011 on the basis of net spending.

These and many other activities, in addition to the TICAD initiatives, are not always well known by the people of Africa; hence we perceive the need for a network of TICAD journalists to distribute information more widely to all people.

II – OBJECTIVES

The objectives of the network are:

- To monitor the implementation of TICAD V resolutions in the member countries (as the priority) and, in addition, throughout Africa by means of its functions.
- To report on projects implemented within the framework of the resolutions, by means of audio-visual productions distributed on the television channels of the countries of origin of the network's members.
- To produce documentaries on how support provided by the government of Japan has improved African people's

standard of living.

- To acquire through specialised training and seminars a command of the Japanese development model in order to become Japan specialists in our respective production functions.

(フランス語の原稿に、mariereではなく maniere)

- To establish solidarity between the network's members.
- To participate in follow-up reunions and evaluations of TICAD V and prepare for TICAD VI.

III – STRUCTURE AND FUNCTIONING

The network shall essentially be formed by the persons from the African media taking part in the TICAD V 2013 African Media Programme, consisting of 24 journalists, editors, cameramen and directors or producers.

It will function in a non-centralised manner with four gatherings annually; meeting for ten days, during which the six groups of the network shall produce precise material on Japanese governmental assistance or TICAD resolutions in the host countries, such as the development of energy infrastructure in Kenya. This material shall be distributed systematically in all countries of the network at a date agreed upon by the members. In addition, the non-centralisation by country will permit all members to consider issues related to the functioning of the network, which shall have:

A president

A vice-president

A secretary-general

A deputy secretary-général

A chief of productions

A deputy chief of productions

The network's means of functioning are guaranteed by JICA.